

取扱説明書

SHIBAURA

スーパー

ss1700B



当製品を、安全に正しくお使いいただくために、必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使い方をした場合、事故をまねくおそれがありますので安全には十分注意して作業してください。お読みになった後は、必ず製品と一緒に大切に保管してください。

株式会社IHIアグリテック

はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**シバウラスーパー**をお買い上げいただきありがとうございますございました。

この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「**安全に作業をするために必ずお守りください**」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた販売店へご相談ください。
- マスターキーとスペアキーは、別々にして大切に保管してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

危険

その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

[重要]

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

本製品の使用 目的について

本製品は、芝生の清掃機ですので、それ以外には使用しないでください。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。)

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

- 安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。

2章 保証とサービスについて

- 保証とアフターサービスについて説明しています。

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき

- 本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。

4章 運転と作業のしかた

- エンジンの始動から走行のしかた、および荷箱の使用のしかたを説明しています。

5章 作業後の手入れについて

- 機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。

6章 手入れと点検・調整について

- 長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。

7章 不調診断

- 正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。

8章 その他

- 仕様、および主要消耗部品について説明しています。

9章 電気回路図

- 電気回路図を載せています。

目次

はじめに	1
お願い	1
おことわり	1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）	2
本製品の使用目的について	2

本文の概要	3
--------------	----------

1章 安全に作業をするために必ずお守りください **6**

1. 作業者の体調・服装について	6
2. 使用する機械について	7
3. 運転前・作業前点検をするとき	8
4. 作業をするとき	14
5. トラックへの積込み・積降しをするとき	20
6. 格納をするとき	23
7. 安全銘板の貼付け位置	24

2章 保証とサービスについて **26**

保証書は大切に保管してください	26
アフターサービスをお受けになるときは	26
機械の廃棄について	26

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき **27**

4章 運転と作業のしかた **30**

1. 運転前の点検	30
2. 燃料の点検・給油のしかた	32
3. エンジンの始動・停止のしかた	33
4. 発進・旋回・変速・停止のしかた	37
5. 作業のしかた	41
6. 坂道での運転のしかた	46
7. 作業場への出入りのしかた	47
8. ライトの使いかた	47
9. トラックへの積込み・積降しのしかた	48

5章 作業後の手入れについて **49**

- 1. 作業後の手入れ…………… 49
- 2. 長期間使用しない場合の手入れ…………… 50

6章 手入れと点検・調整について **51**

- 1. 定期点検一覧表…………… 52
- 2. 各部のグリスアップのしかた…………… 53
- 3. ラジエタの点検のしかた…………… 56
- 4. エンジンオイルの点検・交換のしかた…………… 57
- 5. H S Tオイルの点検・交換のしかた…………… 59
- 6. エアクリーナの掃除・交換のしかた…………… 59
- 7. カートリッジフィルタの交換のしかた…………… 60
- 8. 燃料フィルタの洗浄のしかた…………… 61
- 9. エア（空気）抜きのしかた…………… 61
- 10. 燃料タンクの水抜き洗浄のしかた…………… 62
- 11. 燃料ホース・電気配線の点検のしかた…………… 62
- 12. ヒューズの点検・交換のしかた…………… 63
- 13. バッテリの点検、整備のしかた…………… 63
- 14. タイヤ空気圧の調整のしかた…………… 65
- 15. ハンドルの点検のしかた…………… 65
- 16. H S Tペダルの点検のしかた…………… 66
- 17. ブレーキの点検、調整のしかた…………… 66
- 18. ブラシ・送風機回転レバーの点検のしかた…………… 68
- 19. 締付けするところ…………… 69

7章 不調診断 **70**

8章 その他 **73**

- 1. 主要諸元…………… 73
- 2. 主要消耗部品…………… 74

9章 電気回路図 **75**

1章 安全に作業をするために必ずお守りください

- 本機は芝生の清掃作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
 - ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
 - ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について

▲ 警告

■こんなときは運転しない

- 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
- 睡眠不足の人。
- 視力不足のため表示内容が読めない人。
- 取扱説明書の内容が理解できない人。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18歳未満の人。
- 運転が未熟な人。

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



■作業に適した服装

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2. 使用する機械について

▲ 注意

■ 点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に、駐車ブレーキレバー・ハンドル・HSTペダルなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。



■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

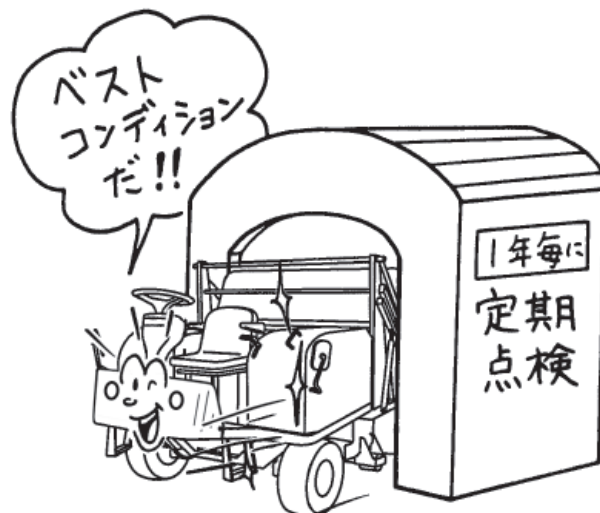


■ 定期点検、整備を受ける

1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠ 危険

- 荷箱下での点検、整備時は荷箱落下防止金具を使用
【守らないと】

何らかの原因で荷箱が落下したときに傷害事故をおこします。



- 注油・給油はエンジンが冷えてから
エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

エンジンが熱い間は
注油・給油はしないで...



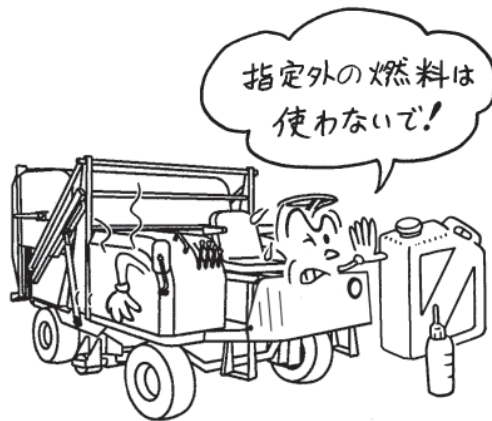
- 指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。

指定外の燃料は
使わないで!



- 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



▲ 危険

■ 燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ 燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこします。必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ 必ず指定のバッテリーを使用

バッテリーを交換するときは、必ず指定のバッテリーを使用してください。

【守らないと】

火災の原因となることがあります。



■ バッテリーの点検は火気厳禁

バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。

【守らないと】

バッテリーに引火し、爆発して火傷などを引き起こすおそれがあります。



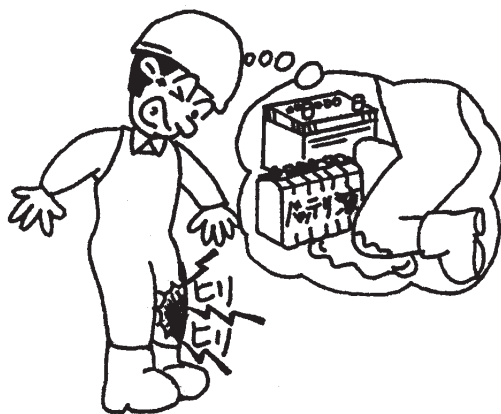
⚠ 危険

■ バッテリー液は体につけない

バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。
万一付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れるおそれがあります。



■ バッテリー取付け、取外しは正しい手順で

バッテリーを取付けるときは⊕側を先に取付け、取外すときは⊖側から外します。

【守らないと】

ショートして、火傷や火災事故を引き起こすおそれがあります。



■ ラジエタが熱いときはキャップを開けない

ラジエタが過熱しているときは、絶対にラジエタキャップを開けないでください。

【守らないと】

熱湯が噴出し、火傷をするおそれがあります。

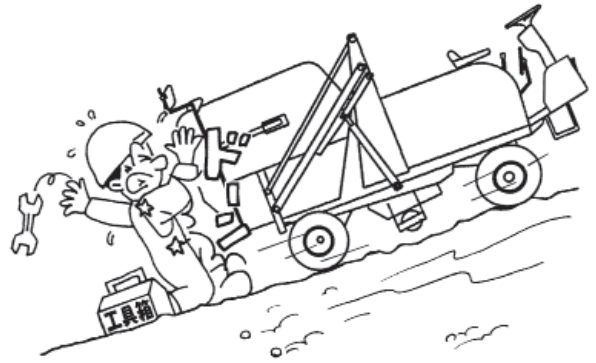


⚠ 警告

- 点検、整備は平坦な安定した場所で
交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



- バッテリー液を「下限 (LOWER)」以下にしない

バッテリー液は「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあることを確認し、「下限 (LOWER LEVEL)」以下にしないでください。

【守らないと】

「下限 (LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部がバッテリー液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



- 機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



- タイヤは必ず点検

タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。タイヤに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

タイヤがパンクして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



警告

■ タイヤホイール取付ボルトの締付け確認とホイールの傷のチェック

タイヤホイールの取付けボルトは、確実に締付けてあるか確認してください。そのときにホイールに傷がないかも確認してください。

【守らないと】

タイヤが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■ 電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。

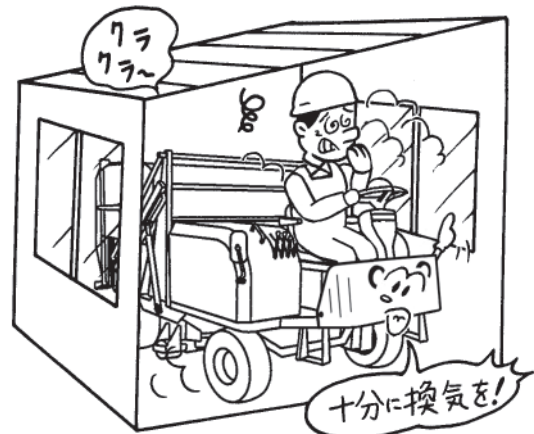


■ 排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■ マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部に芝カス・ゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引き起こすことがあります。



▲ 注意

■ ブレーキ・ハンドルは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、片効きしていないか、またハンドルに著しいガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引き起こすおそれがあります。



■ 点検、整備は高温部が十分冷えてから

マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。



■ 点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



■ 部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。



⚠ 注意

■ 高圧オイルに注意

油圧ホースにゆるみや損傷がないか常に確認し、点検や修理などで、継手やホースを外す前には、油圧回路内の圧力をなくしてください。

【守らないと】

高圧オイルは、皮膚をつきやぶることがあり、傷害事故をおこすおそれがあります。



■ カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。



4. 作業をするとき

⚠ 危険

■ 後進するときは低速で

後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と機械との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。



■ 移動時は路肩に注意

坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。



⚠ 危険

■ 荷箱の下は、立入厳禁

荷箱の下にもぐったり、足を踏入れたりしないでください。

【守らないと】

何らかの原因で荷箱が下がったときに、傷害事故をおこします。



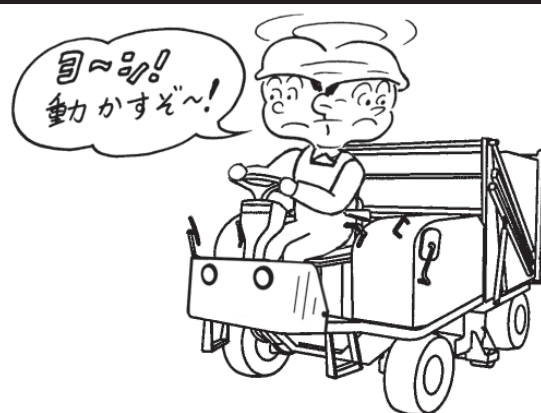
⚠ 警告

■ エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

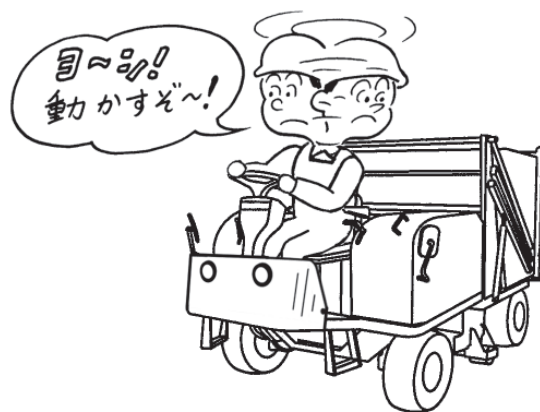


■ 周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ず駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にし、周囲の人に合図をしてからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

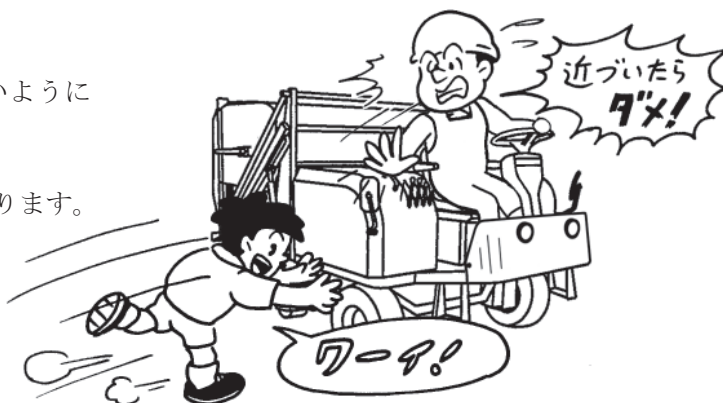


■ 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



警告

燃えているゴミの上やその近くは 走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



過積載禁止

最大作業能力以内で運搬してください。特に坂道では芝カスを軽くして作業してください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。

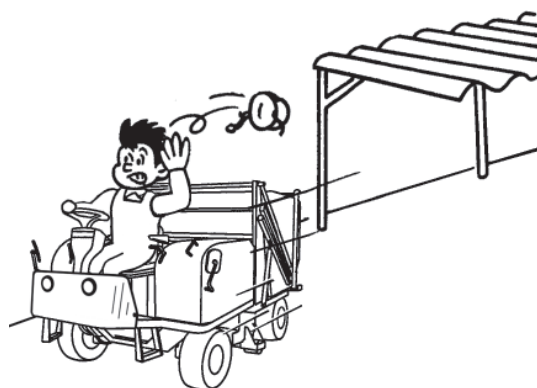


ブレーキのまま走行禁止

ブレーキペダルを踏んだまま、または駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置のまま走行しないでください。

【守らないと】

ブレーキが効かなくなり、けがをするおそれがあります。



▲ 警告

■ ブレーキの使い過ぎ禁止

急な下り坂での走行は十分注意して行ってください。いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

ブレーキが効なくなり、事故をおこすおそれがあります。

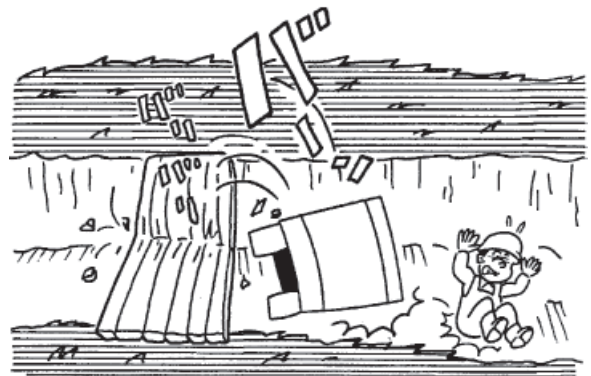


■ 溝を渡るときはあゆみ板を使用

作業場に入るとき、溝を渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。

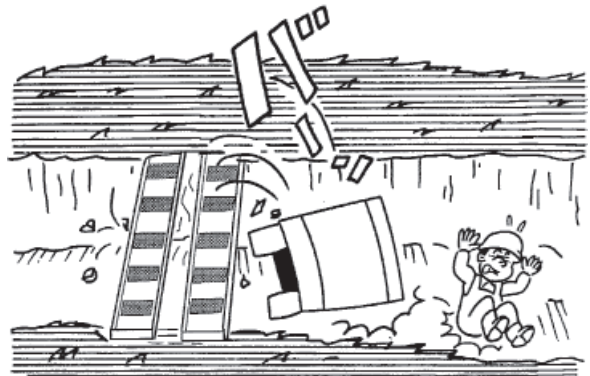


■ 坂道やあゆみ板の上では、だ性運転禁止

坂道やあゆみ板の上での走行は、十分注意して低い速度で走行してください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、転落などの事故をまねくおそれがあります。



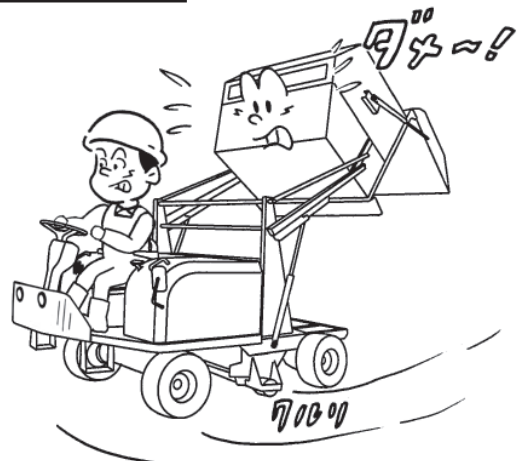
■ 荷箱をハイダンプした状態で走行禁止

荷箱をハイダンプした状態で走行しないでください。

【守らないと】

バランスが崩れやすくなり、そのうえ障害物の確認ができません。

死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



⚠ 警告

■ 坂道では、ハイダンプ作業禁止

坂道では、ハイダンプを利用しての芝カスの排出はしないでください。

【守らないと】

本機のバランスが崩れ、死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。



■ 15°以上の急傾斜地での使用禁止

15°以上の急傾斜地では横転の危険が高いため使用しないでください。

【守らないと】

死亡、または重傷を負う危険性があります。



⚠ 注意

■ 暖機運転中は駐車ブレーキを掛ける

【守らないと】

本機が自然に動きだし、事故を引き起こすおそれがあります。



■ 芝の清掃作業以外は使用禁止

芝の清掃以外の作業や改造などは決してしないでください。また、公道での走行はしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



▲ 注意

■ くわえたばこでの作業厳禁 【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。



■ マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



■ 運転席以外には乗らない

走行中は運転席以外に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは、十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。



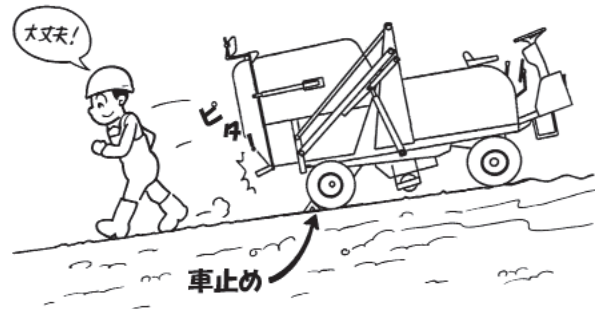
⚠ 注意

■ 機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



5. トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠ 警告

■ 強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないように駐車ブレーキを掛け、車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

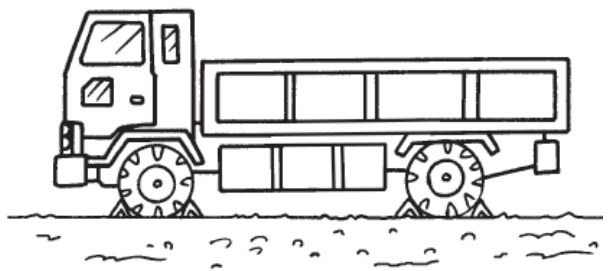
- 長さ…トラックの荷台高さの4倍以上
- 幅…本機のタイヤ幅の1.5倍以上
- 強度…本機の総重量に十分耐えられるもの（1本当たり）
- 表面…すべり止めのあるもの
- 形状…固定フックのあるもの

■ トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。



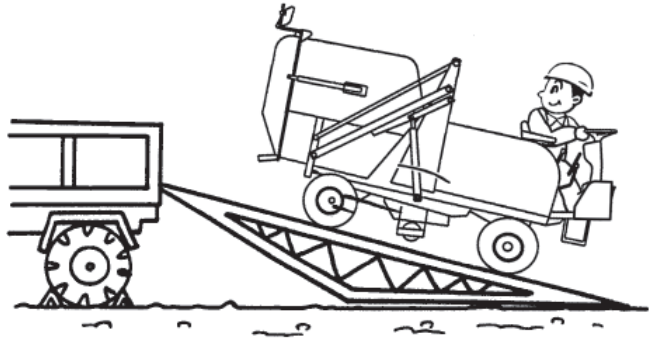
▲ 警告

■ あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのタイヤに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

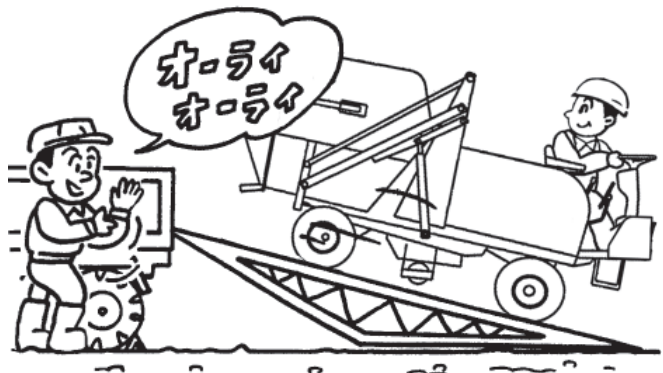


■ 積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



■ 積込み・積降し作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。

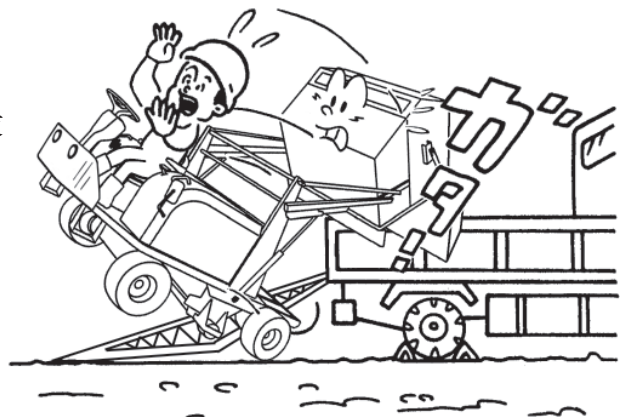


■ 荷箱を下げてあゆみ板を使用

あゆみ板を使用して積込み、積降しをするときは、本機の荷箱を下げて、芝カスを載せないで使用してください。

【守らないと】

バランスが崩れ、転落などの事故の原因になります。



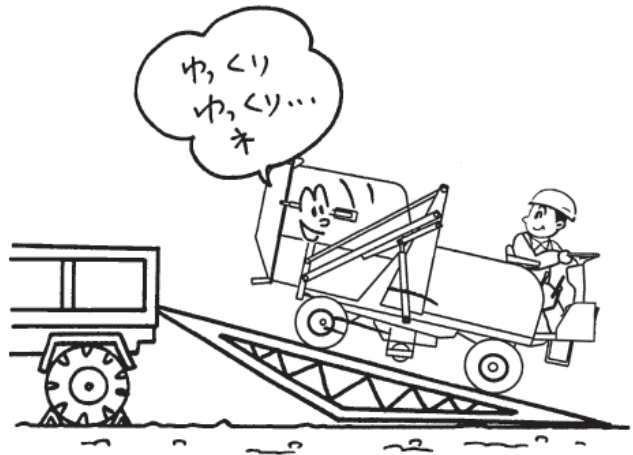
警告

■登るときは後進、降りるときは前進でおこなう

積み込みの場合「後進」、積降しの場合は「前進」の低い速度で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

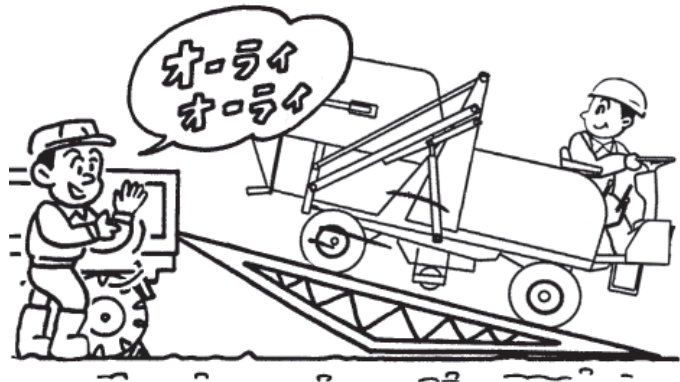


■あゆみ板の上ではハンドル操作厳禁

ハンドルをしっかり握りあゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、ハンドル操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「閉」にしてから動かないように車止めをし、強度の十分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



6. 格納をするとき

▲ 危険

■ シートは機械が十分冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が冷えてからシートをかけてください。長期格納時は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引き起こすことがあります。



▲ 警告

■ 長期格納時はバッテリーとキーを外す

長期間使用しないで格納する場合は、バッテリーを取外し、キーを抜取り保管してください。バッテリーを取外すときは、⊖側を先に外します。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



▲ 注意

■ 機械の近くに可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。近くに燃えやすい物がないか、また、燃えやすい物があれば取除いてください。

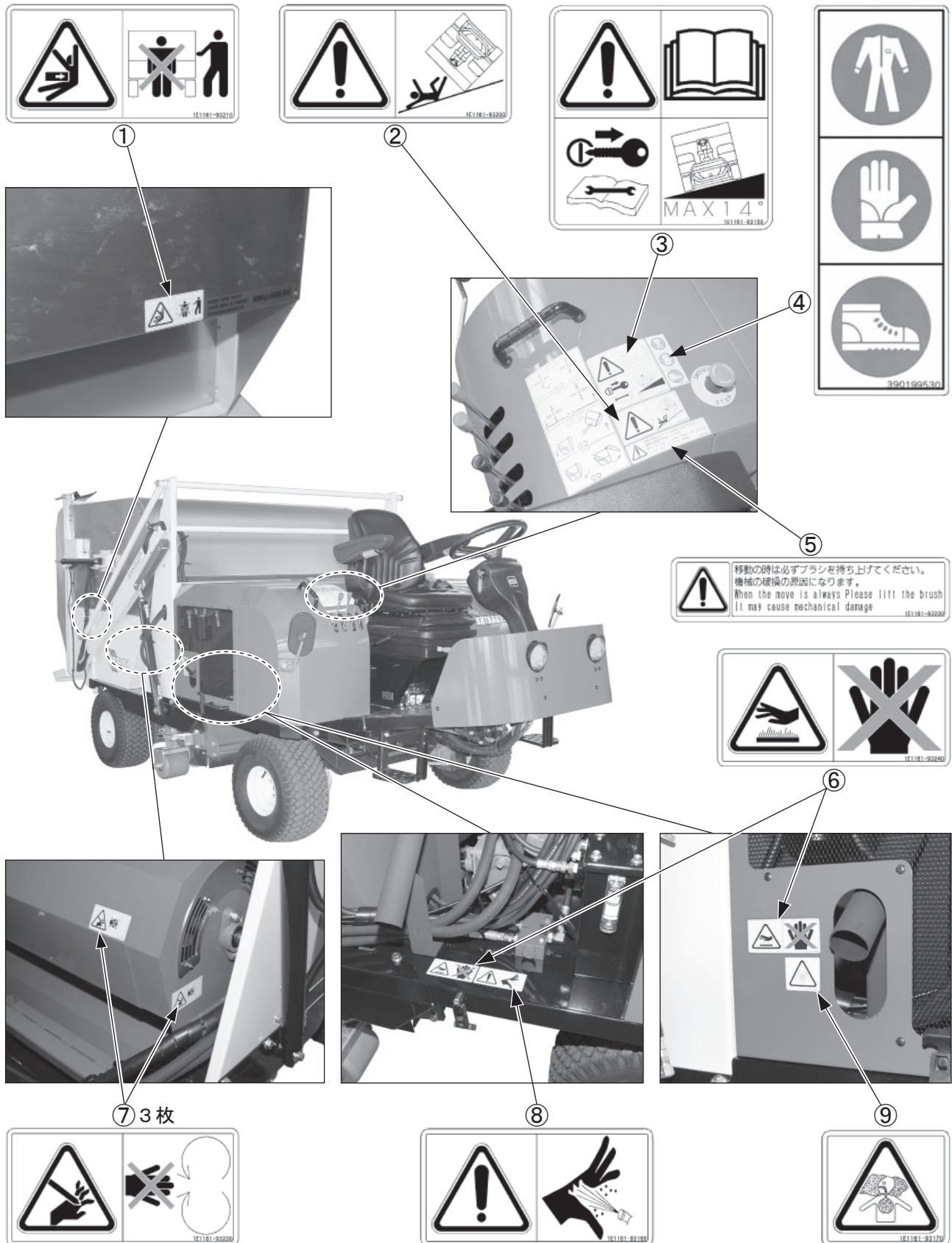
【守らないと】

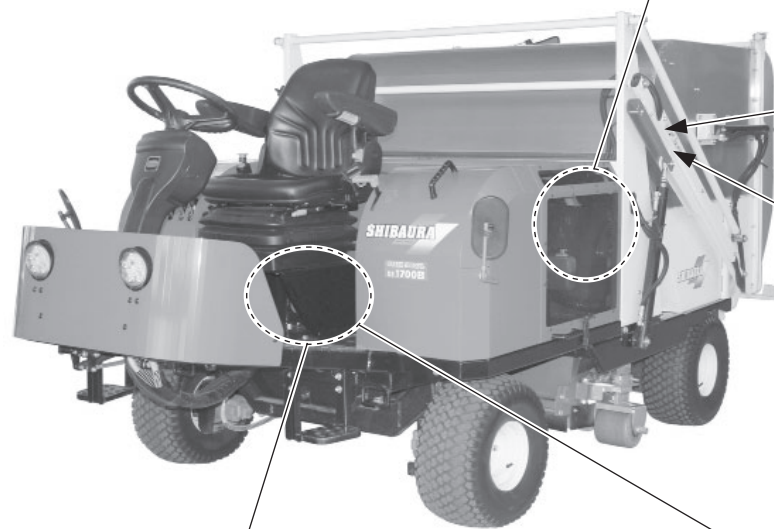
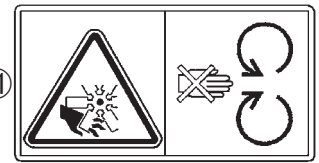
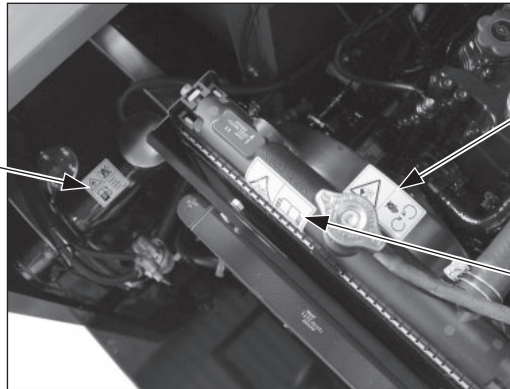
機械が動きだしたり、火災事故を引き起こすことがあります。



7. 安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





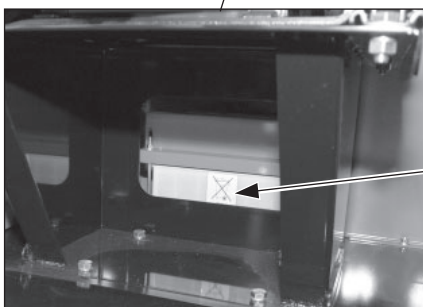
⑬
2枚



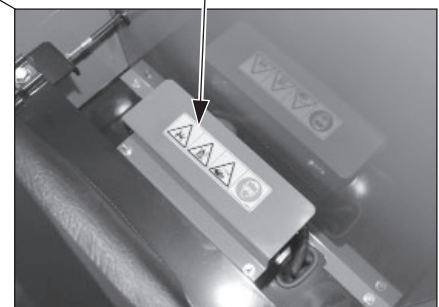
⑭
2枚



⑮



⑯



※No. 7 の側面側とNo. 1 3 とNo. 1 4 は反対側にも貼付けてあります。

No.	部品番号	品名	No.	部品番号	品名
1	1E1161-93210	危険（後進時）	9	1E1161-93170	警告（排ガス）
2	1E1161-93200	危険（坂道・路肩）	10	490992430	コーションプレート
3	1E1161-93150	警告・注意（スイーパー）	11	390198020	コーションプレート
4	390199530	コーションプレート（作業服）	12	390199470	コーションプレート（ラジエタ）
5	1E1161-93220	注意（移動時）	13	1E1161-93190	危険（昇降部）
6	1E1161-93240	注意（マフラー）	14	1E1161-93180	警告（可動部）
7	1E1161-93230	注意（カバー）	15	490992480	コーションプレート
8	1E1161-93160	警告（油圧ホース）	16	390199430	コーションプレート（バッテリー）

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

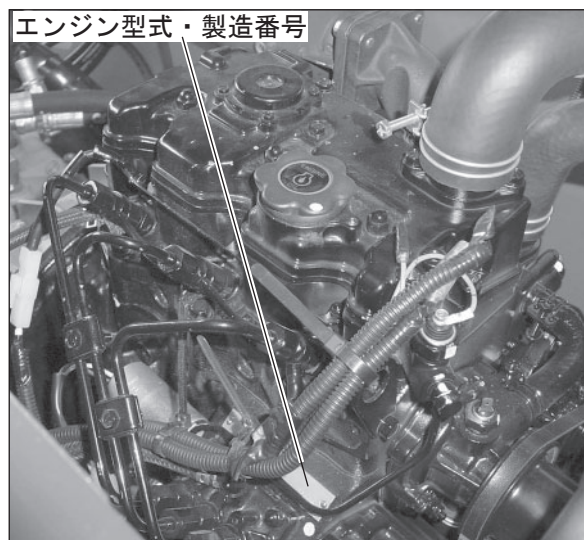
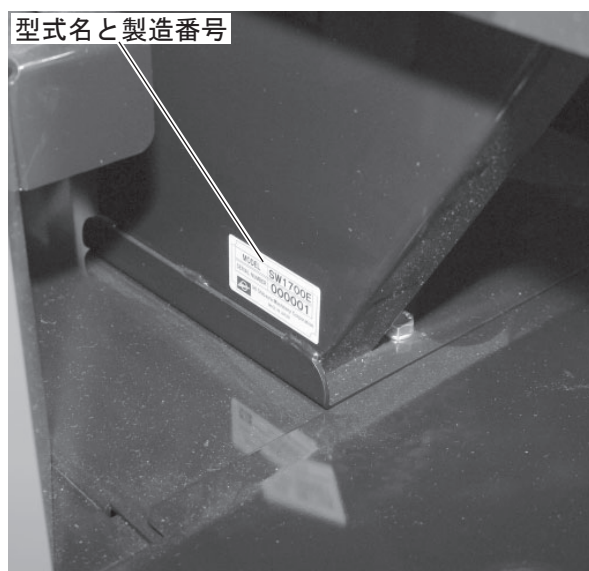
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになる ときは

機械の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合は型式と製造番号
- ご使用状況は？
(どのくらいの速度で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。



〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

機械の廃棄について

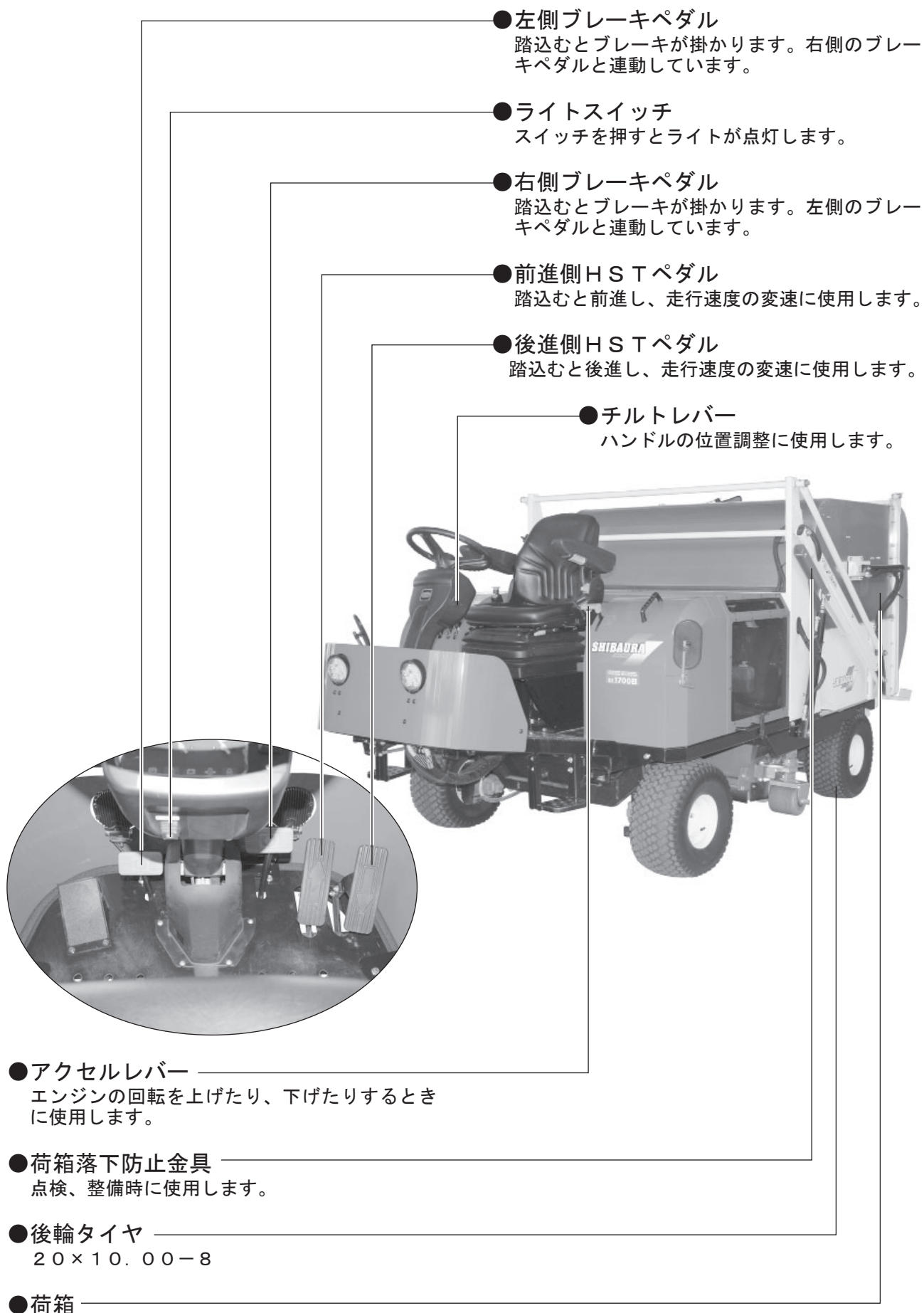
機械を廃棄する場合、販売店もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対に行わないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

3章 各部のなまえと各操作部のはたらき

- ハンドル —————
旋回するときに使います。
- キースイッチ —————
エンジンの始動・停止に使います。
- 座席 —————
- 駐車ブレーキレバー —————
駐車ブレーキに使います。
- 扉開閉レバー —————
芝を捨てるときに扉を開けるレバーです。
- 荷台ダンプレバー —————
荷箱の上昇・下降に使います。
- ブラシ上下レバー —————
ブラシを上下させるのに使います。
- ブラシ・送風機回転レバー —————
エンジンからの動力により、ブラシ・送風機を回すのに使います。
- 非常停止スイッチ —————
エンジンを停止するのに使います。



- 前輪タイヤ —————
20×10.00-8

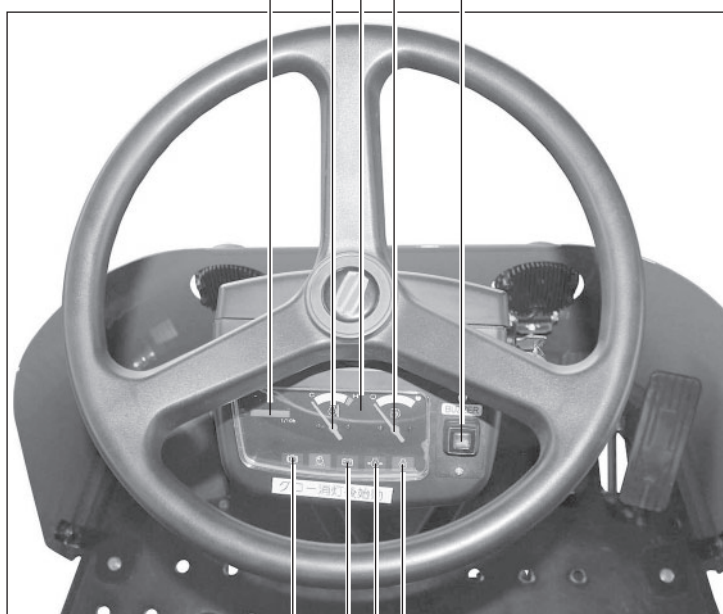



- **ブザースイッチ** —————
芝カスが満杯になったことを知らせるブザーを止めるためのスイッチです。

- **燃料計** —————
キースイッチが「入」位置のときに燃料の残量を表示します。
※燃料タンクの容量は約30Lです。


- **モニターパネル** —————
- **水温計** —————
ラジエタの水温を表示します。


- **アワメータ** —————
走行時間を時間単位で表示します。
※右端の数字は1/10時間（6分）です。



- **駐車ブレーキ警告灯**  —————
キースイッチが「入」位置のときに駐車ブレーキを掛けると点灯します。
※走行中は駐車ブレーキの戻し忘れがないようにしてください

- **充電警告灯**  —————
エンジン回転中にバッテリーの充電系統に異常があると点灯します。

- **エンジンオイル警告灯**  —————
エンジンオイルが少なくなると点灯します。

- **グローランプ**  —————
キースイッチが「予熱」位置のとき、予熱が完了すると消灯します。

1. 運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。
- エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
- 燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。
- マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠ 注意

- 点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。
- 点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

①前日の異常箇所

- 前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②本機のまわりを回ってみて

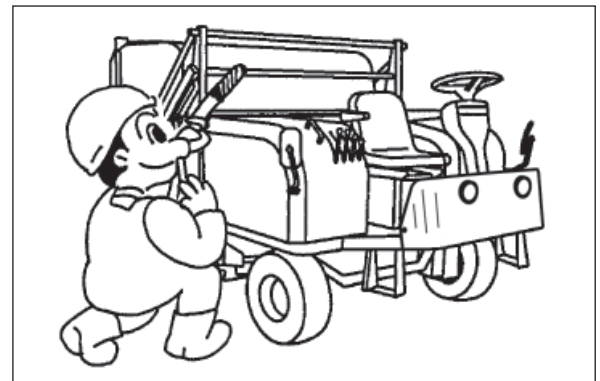
- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤ空気圧・磨耗度合・損傷 ……65



- タイヤホイール・アクスルシャフトの取付けボルト・ナットのゆるみ ……69
- 機体各部の損傷、ボルトのゆるみ ……69

③エンジンカバーを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ ……57

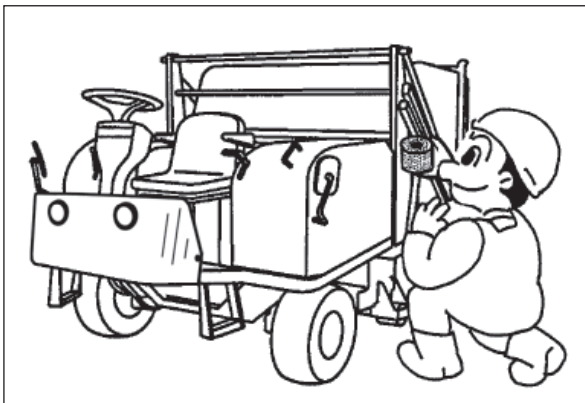


- H S T オイルの油もれ ……59

- 燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷
……32、62



- ラジエタの冷却水の量 ……56
- エアクリーナの汚れ ……59



- マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ
- マフラーの亀裂や腐食などの異常
- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
……62

④バッテリーカバーを開けてみて

- バッテリー液の量 ……63



⑤レバーを操作してみる

- 各レバー、ペダルの遊び量、作動状態
……66 ~ 68



⑥エンジンを始動してみる

- エンジン始動後の異音
- 排気ガスの色



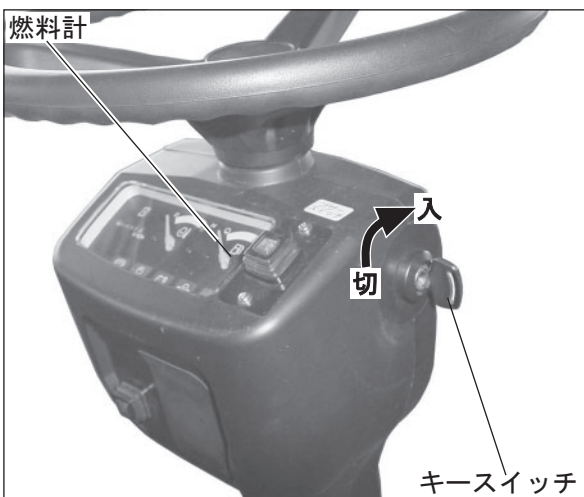
2. 燃料の点検・給油のしかた

⚠ 危険

- 間違ってガソリンなどを入れると危険です。燃料の種類に間違いがないか、補給前に今一度確かめてください。
- 燃料はひかえめに入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

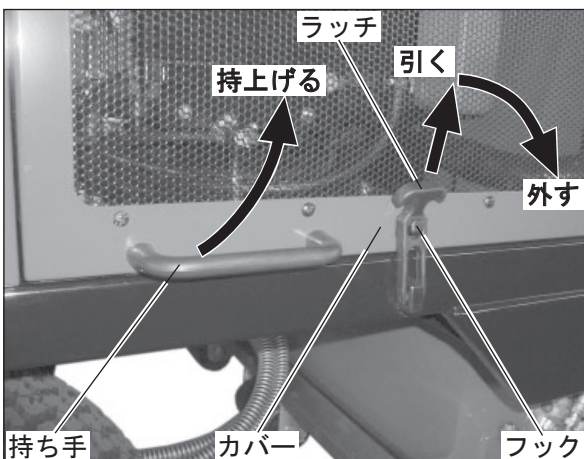
点検

キースイッチを「入」位置にし、燃料計で燃料の残量を調べてください。

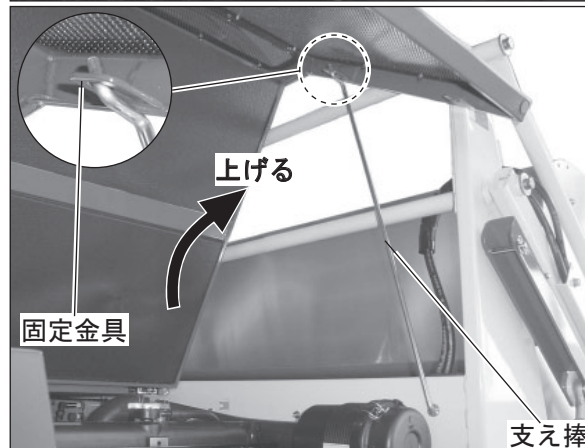
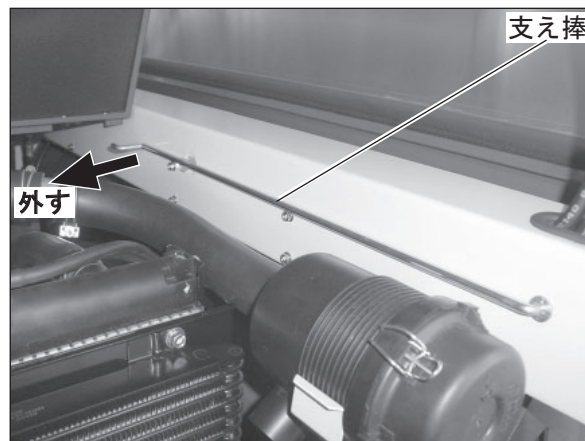


カバーの開けかた

- ① ラッチを少し引きながらフックから外してカバーを持上げます。

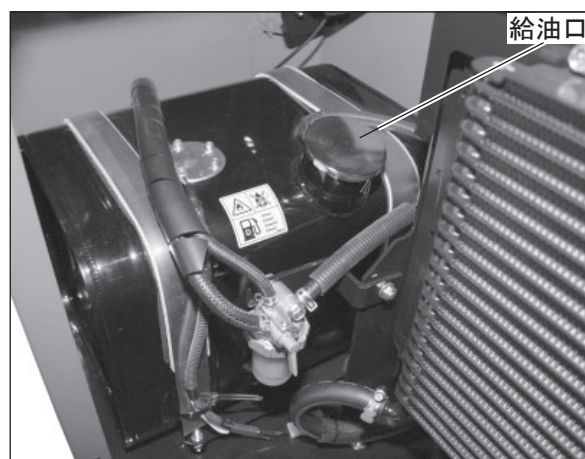


- ② 支え棒を外して、カバーの固定金具の穴に支え棒を入れて固定します。



給油

給油口から「ディーゼル軽油」をひかえめに補給してください。燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めてください。



※給油後は、カバーを元通りに戻してください。

[重要]

- エンジンカバーを閉じるときは、手をはさまないようにゆっくりカバーを下ろしてください。

3. エンジンの始動・ 停止のしかた

⚠ 警告

- エンジン始動時は、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。特に駐車ブレーキレバー・ハンドル・HSTペダルなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。
- 暖機運転中は、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし事故をおこすおそれがあります。
- 運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

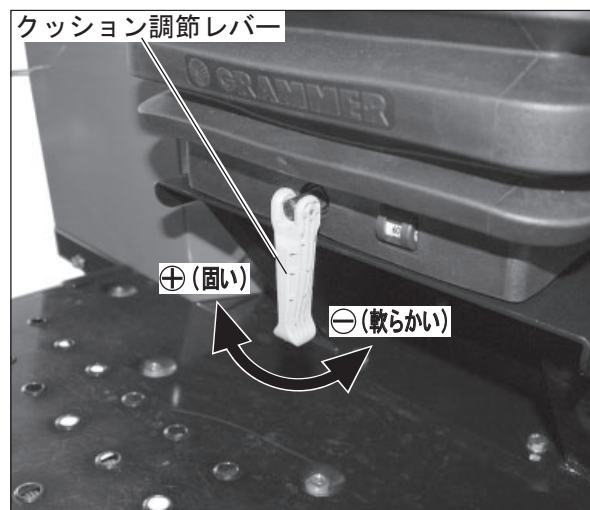
座席の合わせかた

座席の位置や、背もたれの位置、座席のクッション、アームレストの高さの調節ができます。



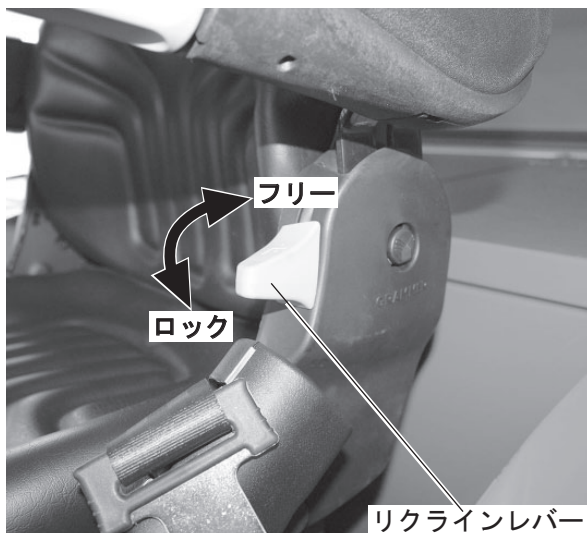
クッション

クッション調節レバーを「⊕」側に回すとクッションが固くなり、「⊖」側に回すとクッションが柔らかくなります。



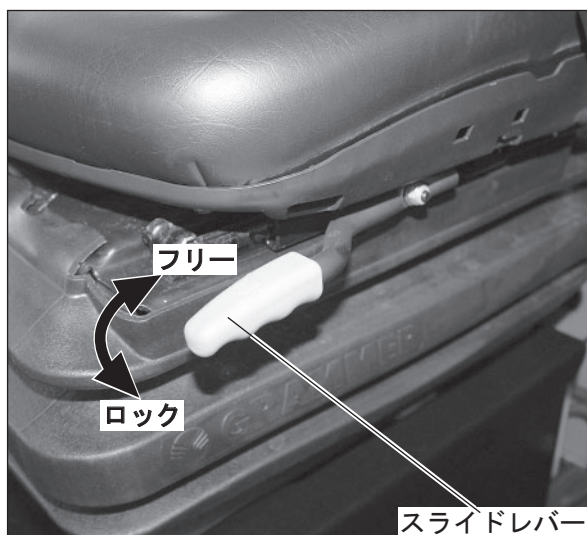
リクライニング

リクライニングレバーをフリー側に動かすと背もたれが倒れます。



座席の位置

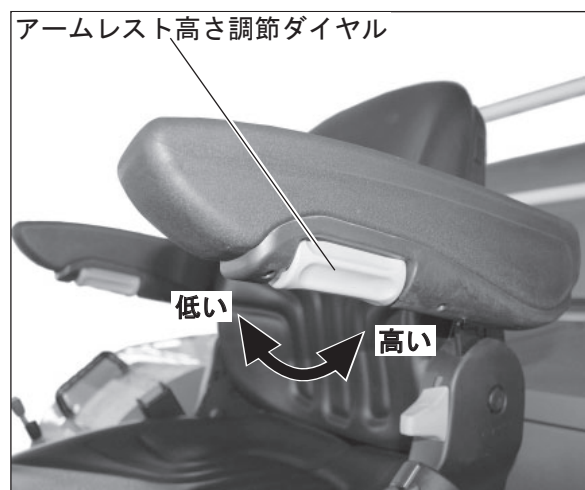
座席の左下のスライドレバーをフリー側に動かすと座席が前後にスライドします。レバーを引ながら位置を合わせ、位置が決まったらレバーから手を放してください。



※必ず、座席が固定されたことを確認してください。

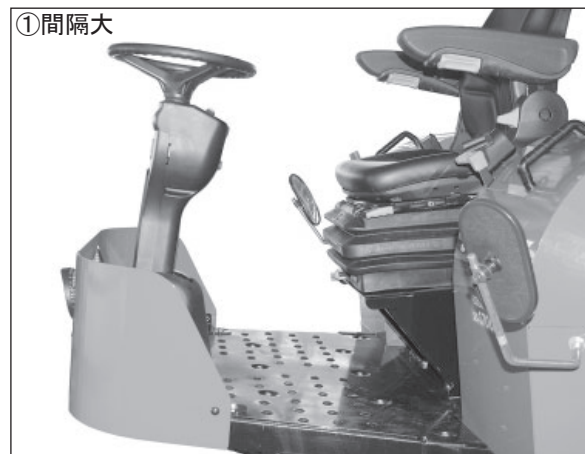
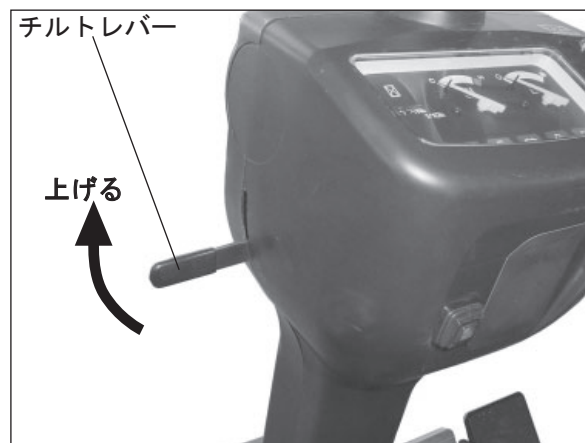
アームレストの高さ調節

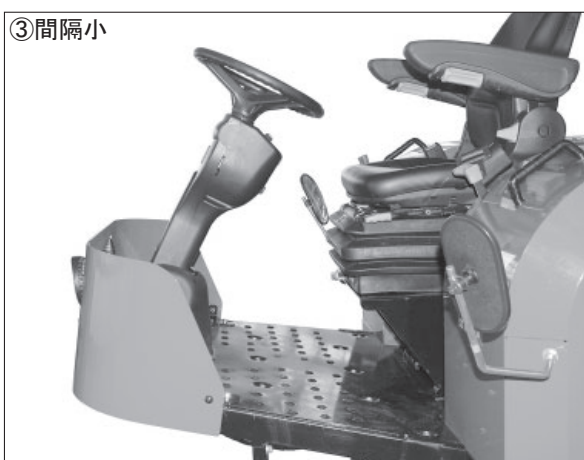
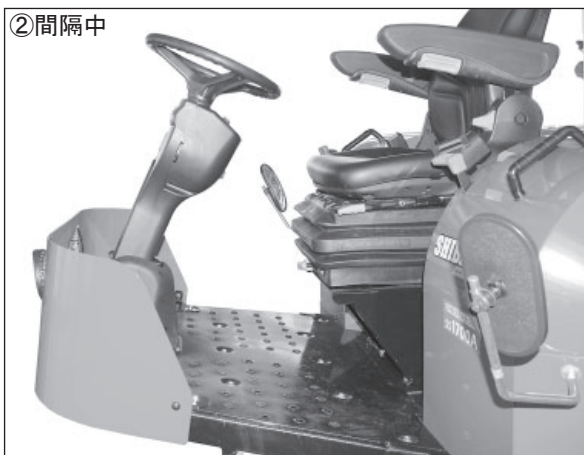
アームレスト下側のダイヤルを回すとアームレストの高さを調節できます。



ハンドルの合わせかた

ハンドルの位置を体格に合わせて三段階で変えることができます。チルトレバーを上を上げながら希望の位置にハンドルを動かし、位置が決まったらレバーを放してください。

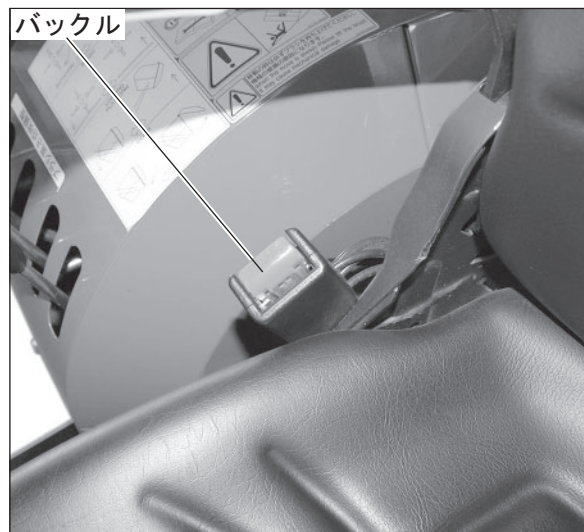
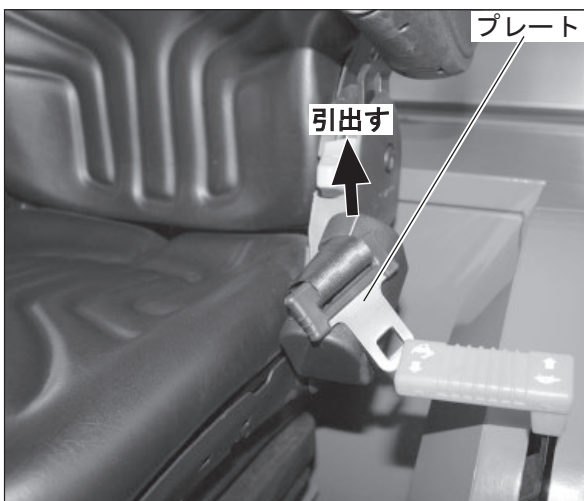




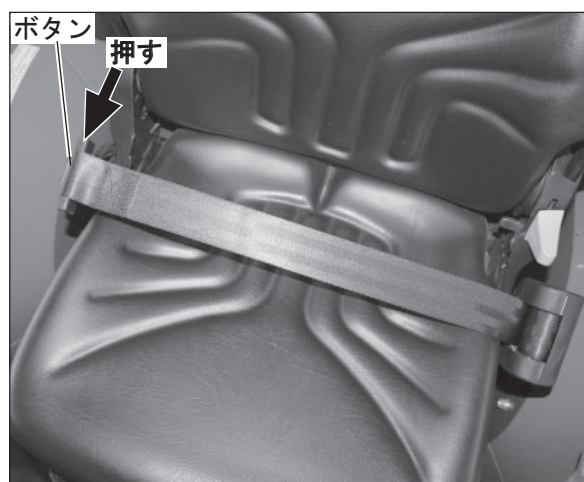
※必ず、ハンドルが固定されたことを確認してください。

シートベルトの使いかた

①シートベルトがねじれないようにプレートを引出し、バックルに「カチッ」と音がするまで差込みます。



②ベルトを外すときは、バックルの赤いボタンを押すと外れます。

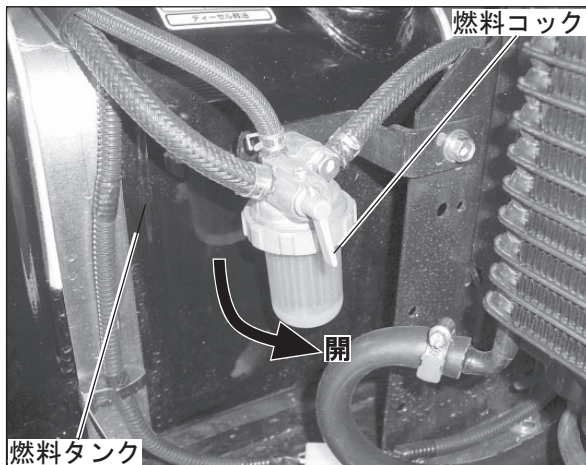


[重要]

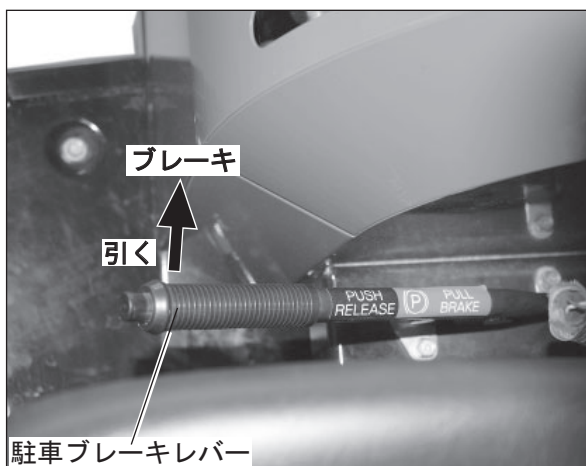
●運転するときは、シートベルトを常に使用してください。

エンジンの始動のしかた

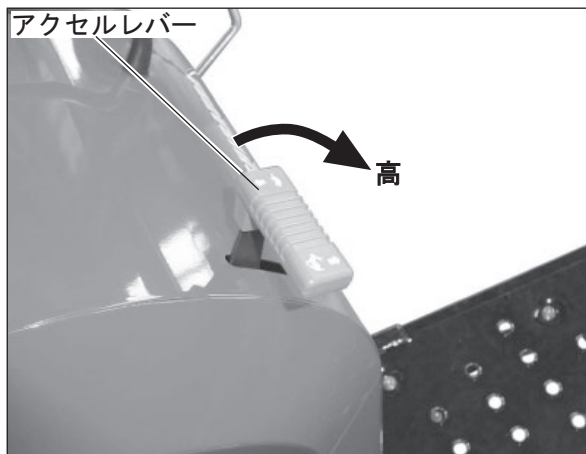
- ①エンジンルームを開けて、燃料タンクの横の燃料コックを「開」にします。



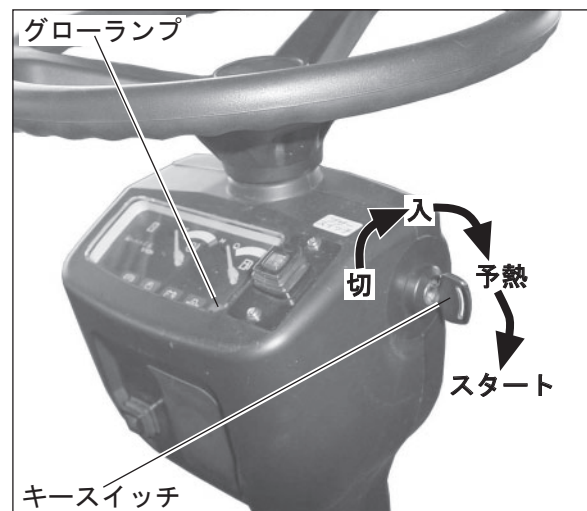
- ②駐車ブレーキレバーを引いて「ブレーキ」位置にします。



- ③アクセルレバーを「高」位置にします。



- ④キースイッチを「入」位置まで回すと、モニターパネルのグローランプが点灯します。さらにキースイッチを「予熱」位置にして、グローランプが消灯したら、キースイッチを「スタート」位置まで回してエンジンをスタートさせてください。



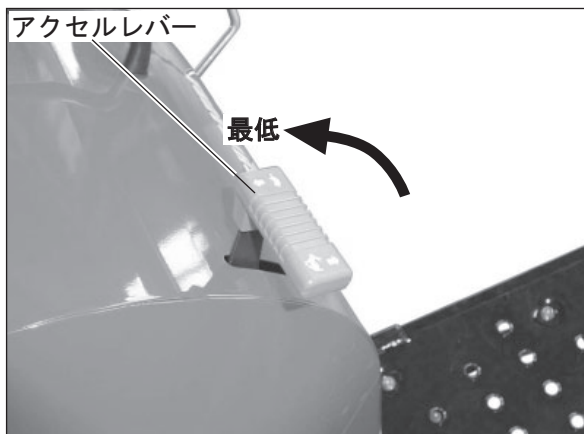
※エンジン始動後は、約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。
(エンジンの暖機運転)

[重要]

- 約10秒以上セルモーターを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、1分以上バッテリーを休ませてから、再び始動させてください。
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「スタート」位置にしないでください。
- 駐車ブレーキ警告灯が点灯しているとき、ブラシ・送風機回転レバーが「止ル」位置にないと、始動安全スイッチが働きエンジンを始動することが出来ません。駐車ブレーキレバーは「ブレーキ」位置、ブラシ・送風機回転レバーは、「止ル」位置に確実にしてください。また、非常停止スイッチが「停止」状態になっていてもエンジンは始動しません。(P40参照) 非常停止スイッチを「解除」状態になっているか確認をしてください。

エンジンの停止のしかた

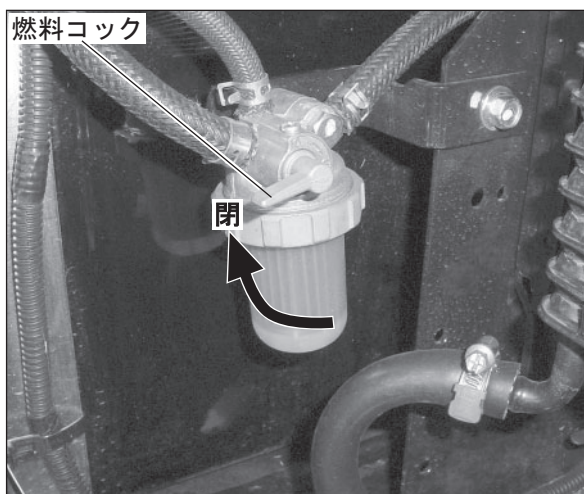
- ①アクセルレバーを「最低」位置にして、エンジンを停止します。



- ②キースイッチを「切」位置にします。



- ③燃料コックを「閉」にします。



4. 発進・旋回・変速・ 停止のしかた

⚠ 危険

- 発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。
- 急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。
- 後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などにより、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

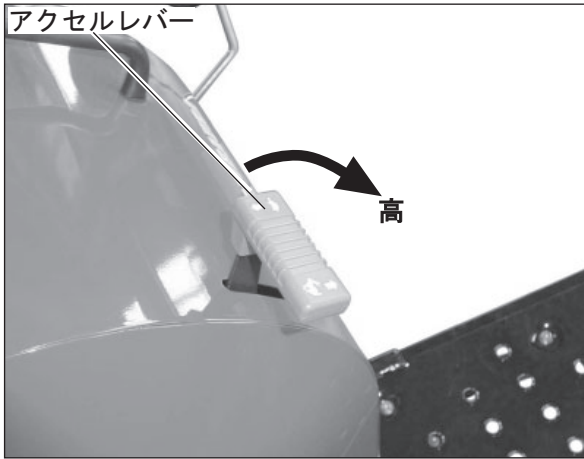
- 発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。
- 本機を使用しないときは、必ずキーを抜いて安全な場所に保管してください。守らないと、児童などが操作して事故をおこすおそれがあります。
- 急な下り坂では、ハンドル操作をしないでください。思わぬ方向に機械が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。
- 後進をする場合、HSTペダルを「低」位置にし、急発進しないように十分注意し、ゆっくり発進してください。

⚠ 注意

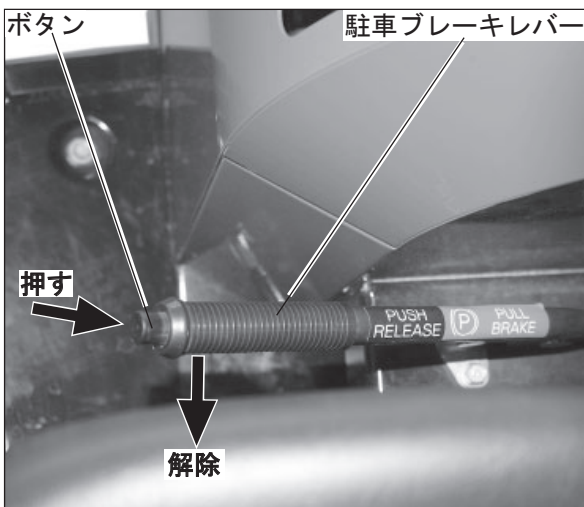
- 小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
- 本機から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして、エンジンを止め、車止めをしてください。守らないと本機が動きだし事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

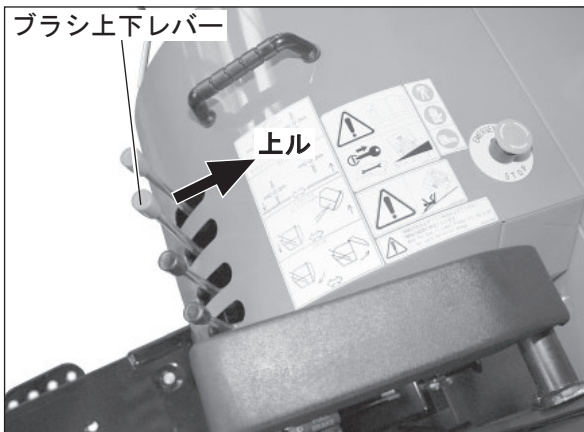
- ①アクセルレバーでエンジンの回転を最大にします。



- ②駐車ブレーキレバーのボタンを押し、レバーを下げて「解除」位置にします。

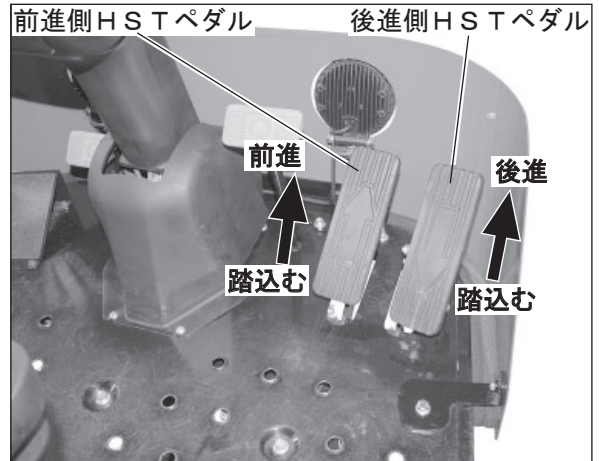


- ③ブラシ上下レバーを必ず「上」位置にし、ブラシを持上げてください。



[重要]

- ブラシが下がったまま走行すると、本機が破損するおそれがあります。
- ④前進側・後進側HSTペダルのどちらか希望の方向のペダルを徐々に踏込んで、ゆっくり発進します。



※加速・減速するときは、HSTペダルをゆっくり操作してください。

旋回のしかた

⚠ 警告

- 旋回するときは、必ずHSTペダルを低速側に戻してスピードをおとし、安全を確認してから、ハンドル操作をしてください。

左に旋回するときは、ハンドルを左側に操作し、右に旋回するときは、右にハンドルを操作してください。



パワーステアリング

本機には、パワーステアリングが装備されています。

※パワーステアリングはエンジンが回転しているときだけ作動します。

※エンジン停止時はハンドルの遊びは大きくなりますが、異常ではありません。

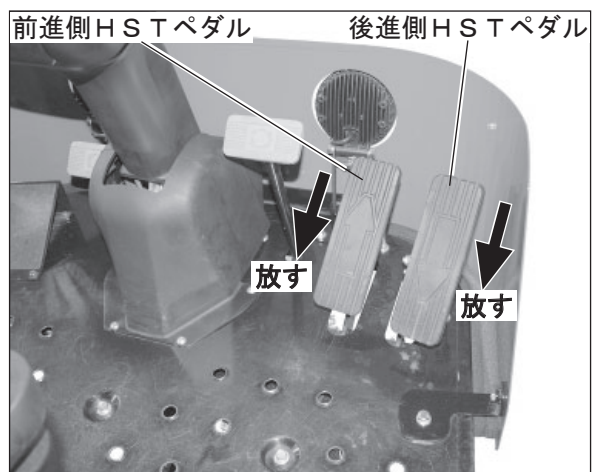
※冬期は暖機運転を十分行ってください。オイルが暖まるとパワーステアリングの装置がスムーズに作動します。

[重要]

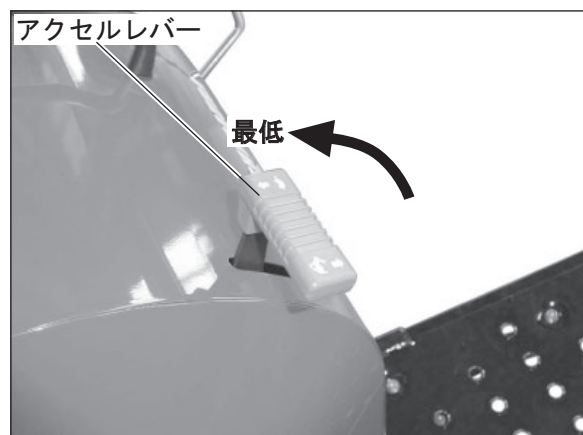
- ハンドルを一杯切ると安全弁が開いて信号音（リリース音）が出ます。このままの状態で使用しないでください。故障の原因になります。
- パワーステアリングはハンドル操作が軽くなりますが、タイヤの異常摩耗を防止するため、停止したままハンドルを切らないでください。
- 走行中にエンジンが停止したときは、パワーステアリングの装置が作動しなくなりハンドル操作が重くなりますが、舵取りはできます。
- 配管などの修理はお買い上げいただいた販売店にご依頼ください。

停止のしかた

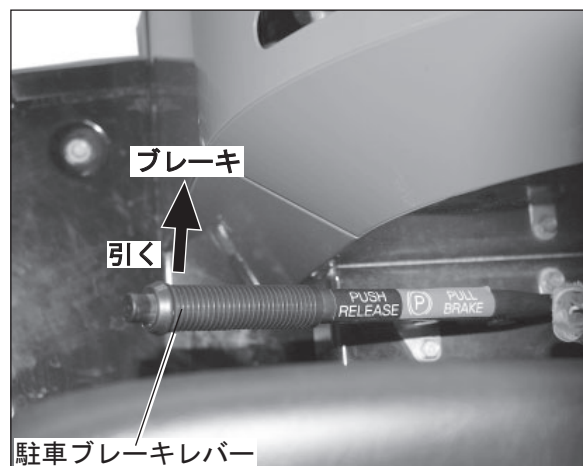
①前進側または後進側のHSTペダルを放します。



②アクセルレバーを「最低」位置にします。



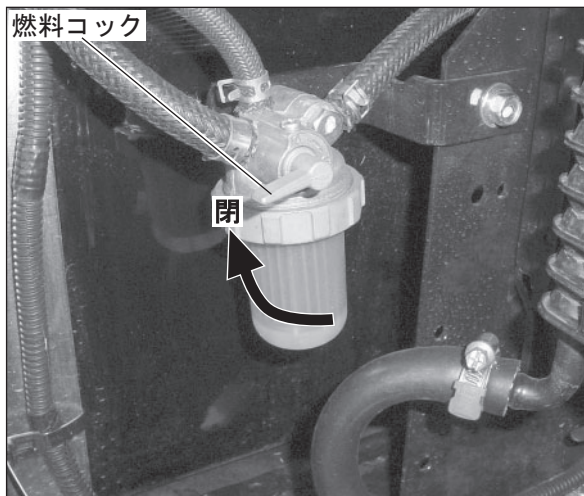
③駐車ブレーキレバーを引いて「ブレーキ」位置にします。



④キースイッチを「切」位置にします。



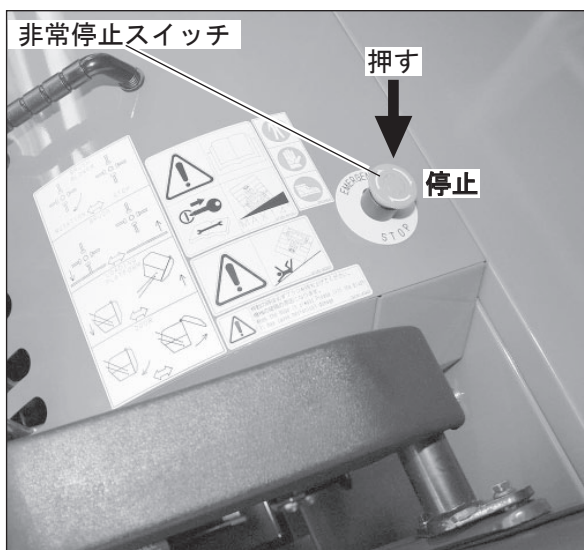
⑤燃料コックを「閉」にします。



非常停止スイッチの使いかた

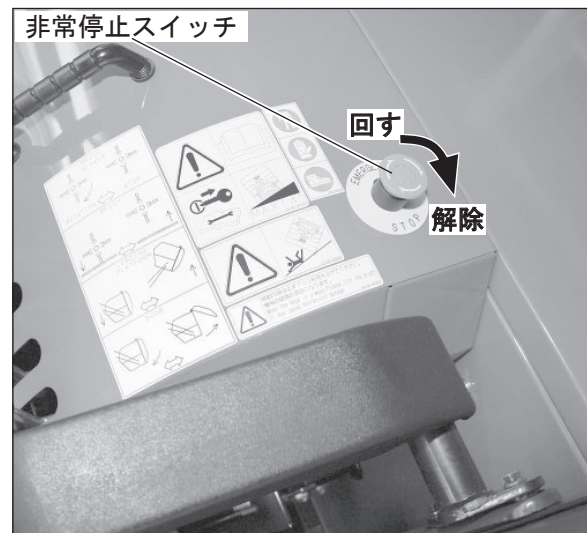
緊急停止のしかた

作業中などに緊急にエンジンを停止させたい場合は、非常停止スイッチを押すとエンジンが停止します。



解除のしかた

非常停止スイッチでエンジンを停止させたあとは、安全を確認して、非常停止スイッチを矢印の方向に回せば解除できます。



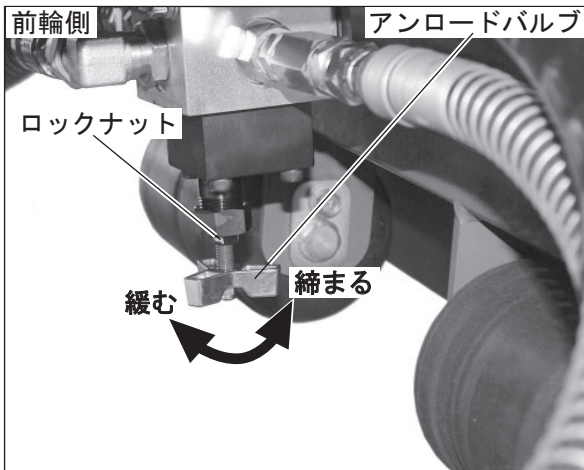
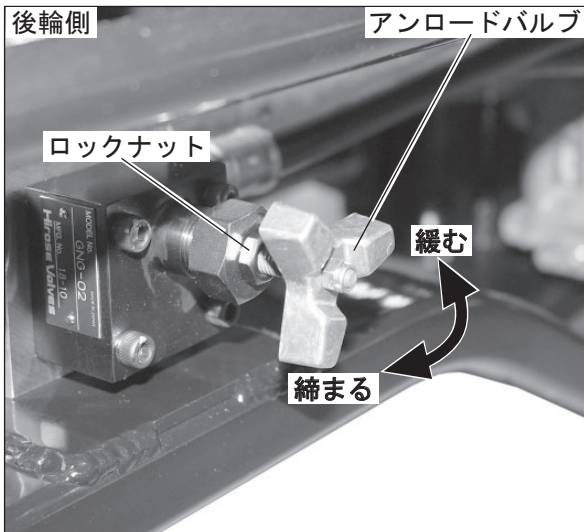
[重要]

- 非常停止スイッチでエンジンを停止させた場合は、安全を確認してからエンジンのキースイッチを「切」位置にしてください。この操作を忘れるとバッテリーの消耗を早めます。
- 非常停止スイッチでエンジンを停止した場合でも、アワメータは作動していますので、長時間そのままにしておくとバッテリーが放電します。

走行不能になったときの動かしかた

エンジントラブルなどの原因で走行できなくなったときは、次の要領で本機を動かしてください。

- ①前輪と後輪のアンロードバルブのロックナットを緩めます。
- ②アンロードバルブを一杯緩めて油圧の圧力を抜き、フリーの状態にして本機を牽引などで動かすことができます。



③本機の修理後は、緩めたときの逆の手順でアンロードバルブを締込み、次にロックナットを締付けて確実にロックしてからエンジンを始動してください。

[重要]

- アンロードバルブが緩んでいると走行が安定しません。危険ですので必ず、アンロードバルブとロックナットが締込んであるか確認してください。

駐車のかた

⚠ 注意

- 駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

5. 作業のしかた

⚠ 警告

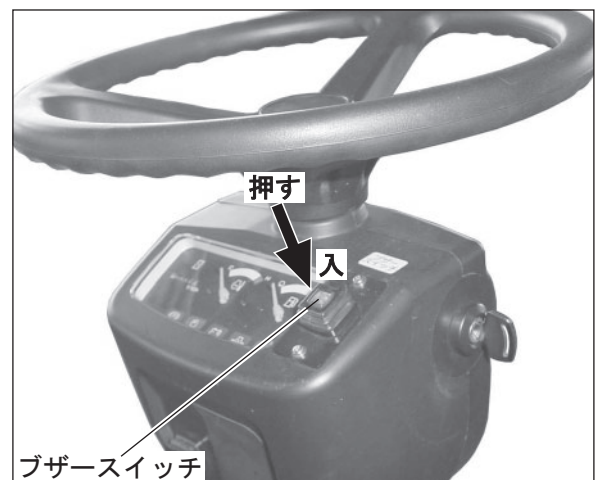
- 最大作業能力以上は芝カスを積まないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。
- 坂道では芝カスの重量を軽くして、安全に走行してください。
- 坂道では芝カスの排出はしないでください。本機の前後バランスが崩れたり、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。
- 15°以上の急傾斜地では使用しないでください。死亡、または重傷を負う危険性があります。

⚠ 注意

- 走行中は、運転者以外に人を乗せたり、荷物を載せたりしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

ブザースイッチのつかいかた

ブザースイッチを「入」にしておくと荷箱に芝カスが満杯近くになると自動的に感知してブザーが鳴ります。



※ブザースイッチを押して「切」にするとブザーが止まります。

荷箱の操作のしかた

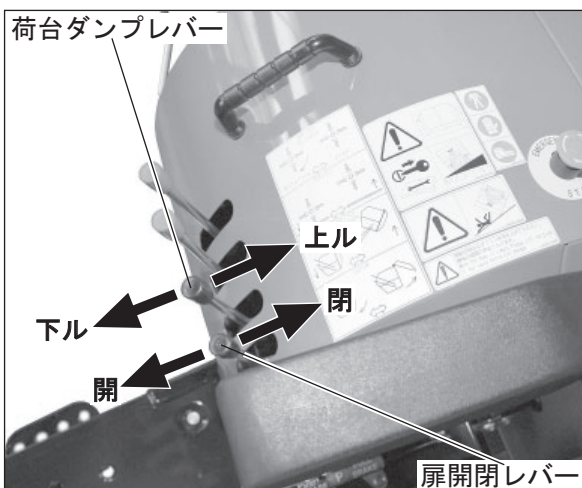
⚠ 危険

- ダンプした荷箱の下には、入らないでください。
- 荷箱を上げての点検、整備は、荷箱落下防止金具をセットしてください。何らかの原因で荷箱が落下し傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠ 警告

- ハイダンプをするときは、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてください。転倒のおそれがあります。
- 坂道でのハイダンプを利用した芝カスの排出は絶対にしないでください。本機が浮上がり転倒・転落事故をおこすおそれがあります。
- 荷箱をハイダンプした状態で走行しないでください。バランスが崩れやすくなり、その上障害物の確認ができません。死亡事故や重大な傷害、物的損害をまねくおそれがあります。

荷箱を上げたいときは、荷台ダンプレバーを「上ル」の方に、下げたいときは、「下ル」の方に操作してください。
扉開閉レバーを「開」の方に操作すると扉が開き、「閉」の方に操作すると扉が閉じます。

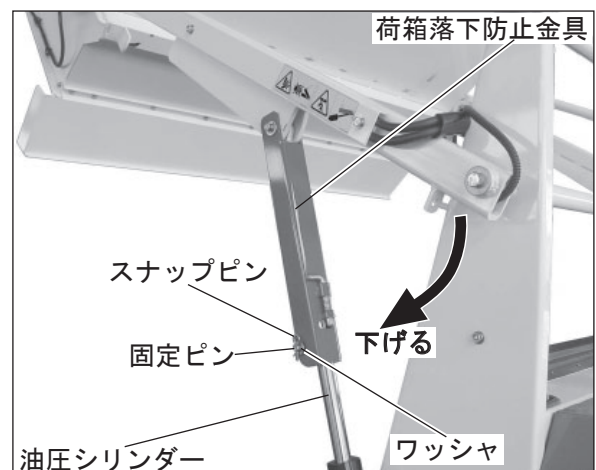
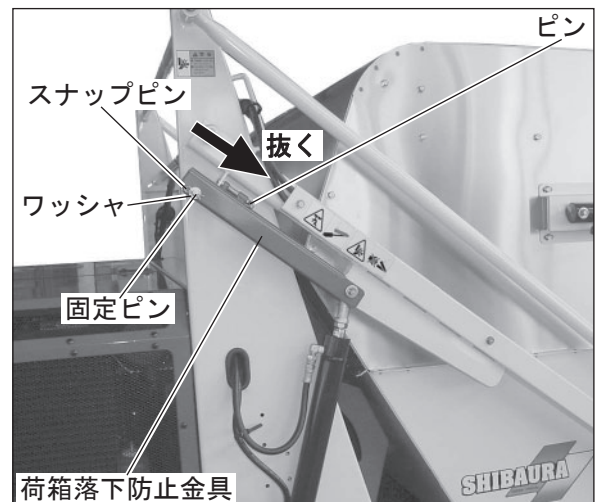


ハイダンプ時



荷箱落下防止金具のセットのしかた

荷箱をハイダンプさせ、荷箱落下防止金具のスナップピンとワッシャ・固定ピンを取外します。荷箱落下防止金具を固定してあるピンを抜き、荷箱落下防止金具を下げてシリンダーにはめ込み、スナップピンとワッシャ・固定ピンを取付けて荷箱落下防止金具をセットします。



[重要]

- 荷箱を上げて点検、整備をするときは、必ず荷箱落下防止金具をセットしてください。
- エンジン停止中に、油圧レバーを操作すると、荷台はゆっくり降下しますが、オイルタンクよりオイルが噴き出すことがありますので緊急時以外は操作しないでください。

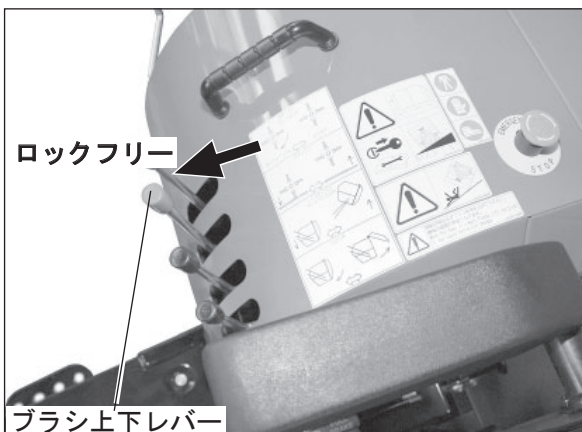
芝生の清掃作業のしかた

⚠ 警告

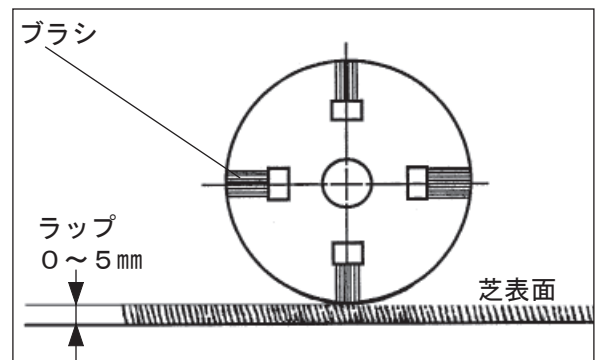
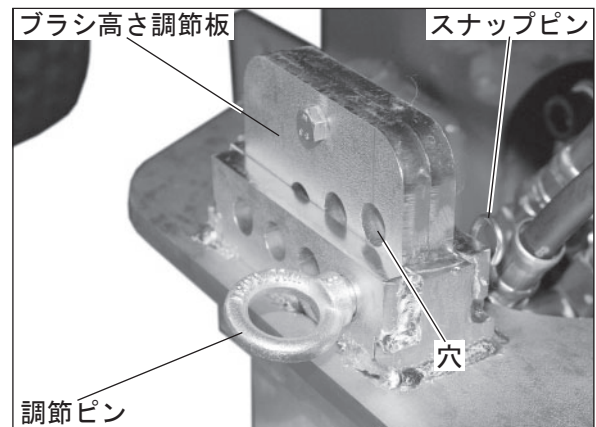
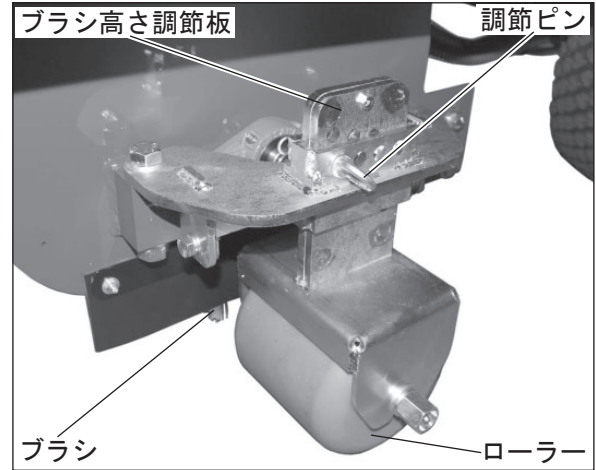
- 傾斜地では、低速で作業をしてください。守らないと転倒のおそれがあります。
- 最低地上高が低いため、凸凹に注意して作業をしてください。
- 後進での走行は、特に後方確認ができませんので、誘導者をつけてください。
- ブザーが鳴ると荷箱がほぼ満杯です。
- 傾斜地で、ダンプすると後部扉が閉まらない場合がありますので平坦地で操作してください。
- 荷箱の網目は定期的に掃除をしてください。
- 清掃作業中は、周囲に石や物が飛ぶことがありますので、人や動物・壊れる物のない場所で使用してください。

ブラシのセットのしかた

- ① 本機を平坦な場所に停止させ、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてエンジンを停止させます。
- ② ブラシ上下レバーを「ロックフリー」位置にします。



- ③ ブラシ高さ調節板に5mm間隔で高さの調節をする穴が開いています。ブラシと芝生のラップが0～5mmになるようにスナップピンを取外し、調節ピンを希望の高さの穴に差込んで、スナップピンで固定してください。



[重要]

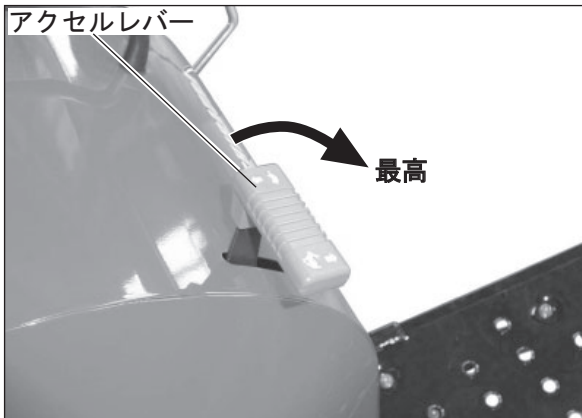
- ブラシの磨耗に応じて、ブラシ高さ調節板で調節してください。
- ブラシを交換する場合は、一度に全部のブラシを交換してください。

清掃作業のしかた

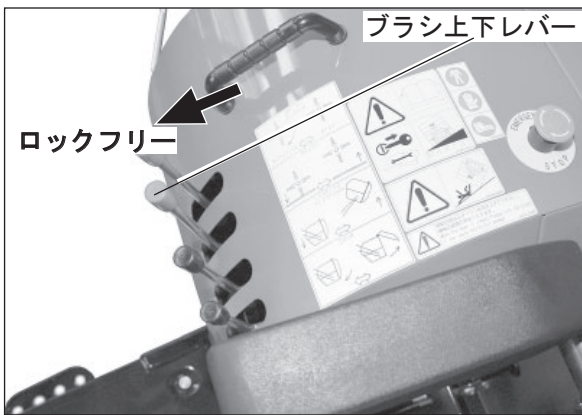
警告

- 清掃作業に入る前に作業区域を確認をし、付近に傾斜地や崖など危険な場所がある場合は作業前に境界表示を行い安全区域内で作業をし、暴走・転落に十分注意してください。

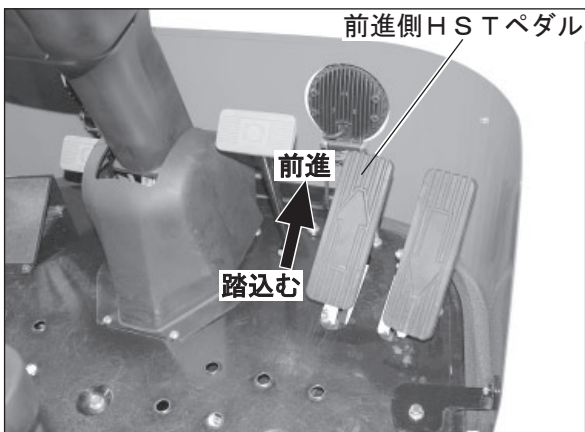
- ①アクセルレバーでエンジンの回転を最大にします。



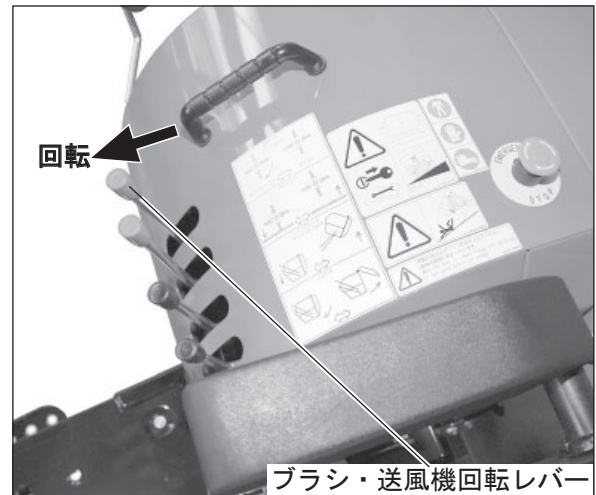
- ②ブラシ上下レバーを「ロックフリー」位置にします。



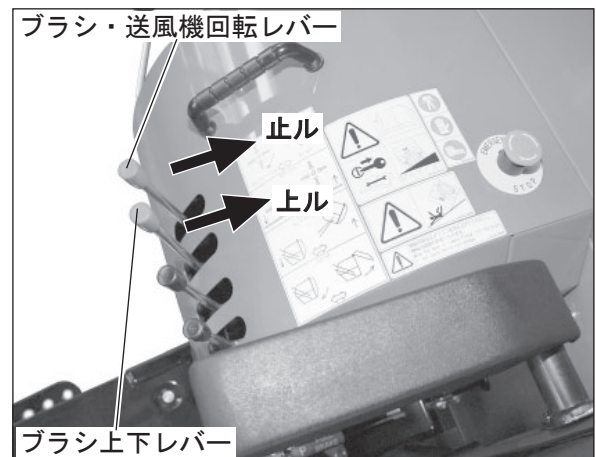
- ③HSTペダルの「前進」側を少しずつ踏込みます。



- ④ブラシ・送風機回転レバーを「回転」位置にします。



- ⑤作業が終了したら、停止する前にブラシ・送風機回転レバーを「止ル」位置にし、ブラシ上下レバーを「上ル」位置にしてください。

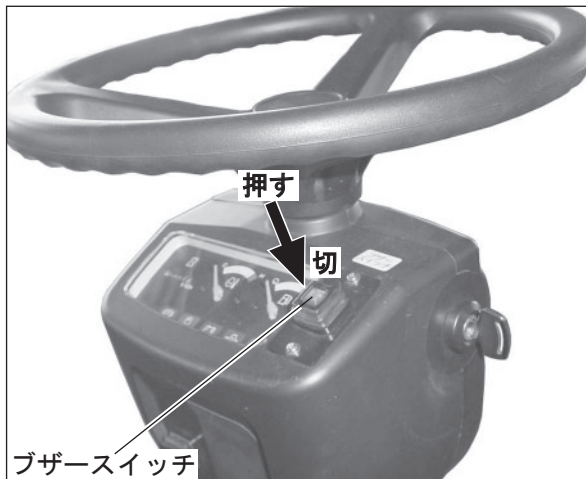


[重要]

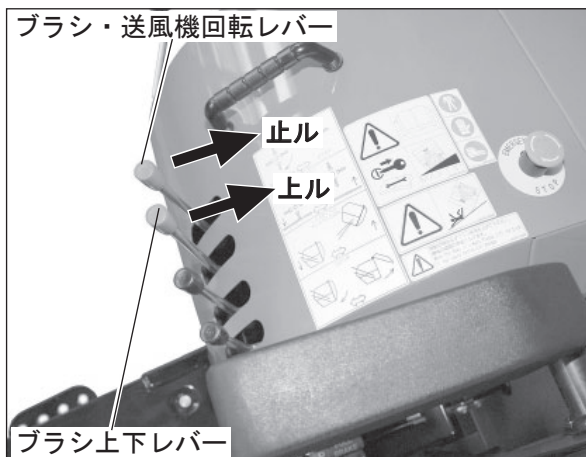
- 移動時はブラシ上下レバーを「上ル」位置にして、ブラシを上げて走行してください。
- 停止する場合は、停止前に回転を止めてブラシを上げてください。
- 芝生の上での旋回は、芝生を傷めないように大回りをしてください。

ハイダンプ排出作業のしかた

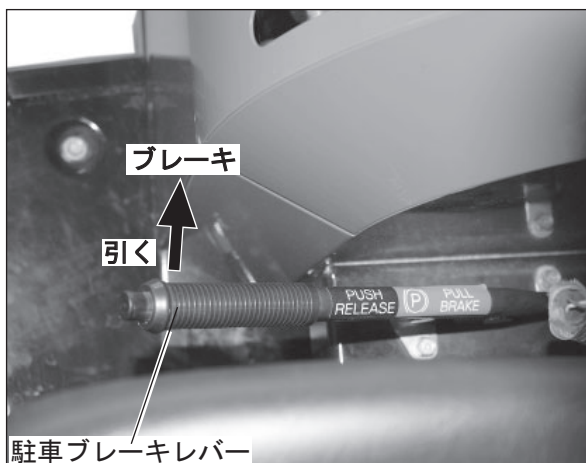
- ①ブザーが鳴ったら、速やかに作業を中断し、ブザースイッチを押して「切」位置にします。



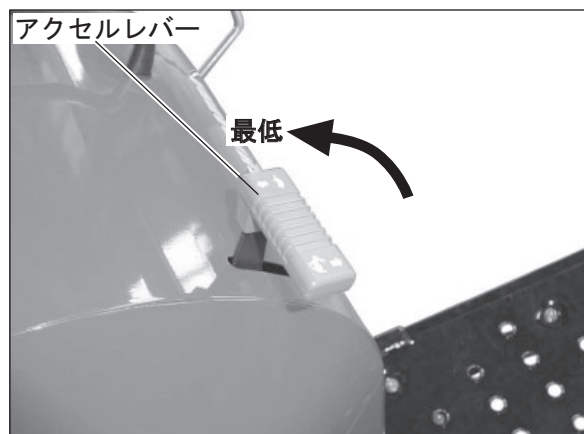
- ②ブラシ・送風機回転レバーを「止ル」位置にし、ブラシ上下レバーを「上ル」位置にします。



- ③本機を排出するトラック、または場所に後進でタイヤを直進状態で止めて、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。

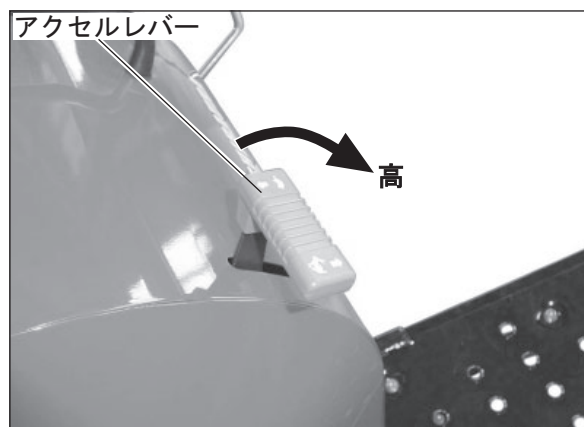


- ④アクセルレバーを「最低」位置にします。

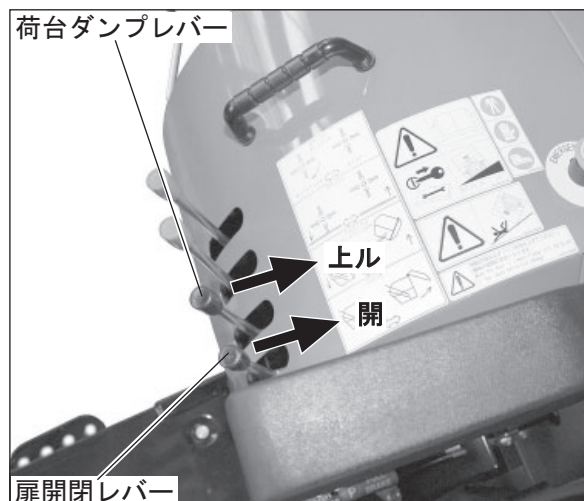


- ⑤周囲の安全を確認します。

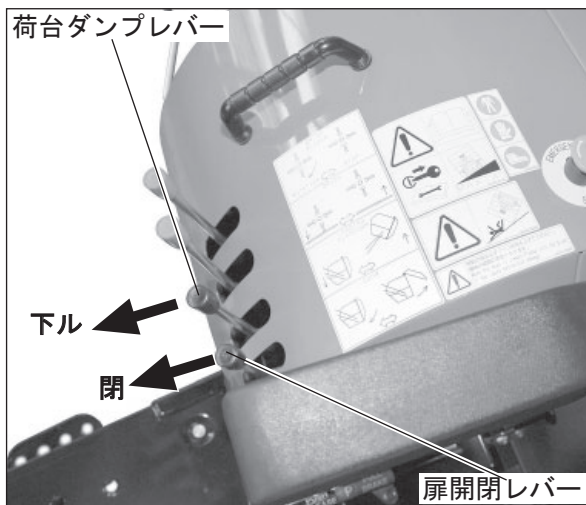
- ⑥アクセルレバーをゆっくり「高」方向にして、エンジンの回転を少し上げます。



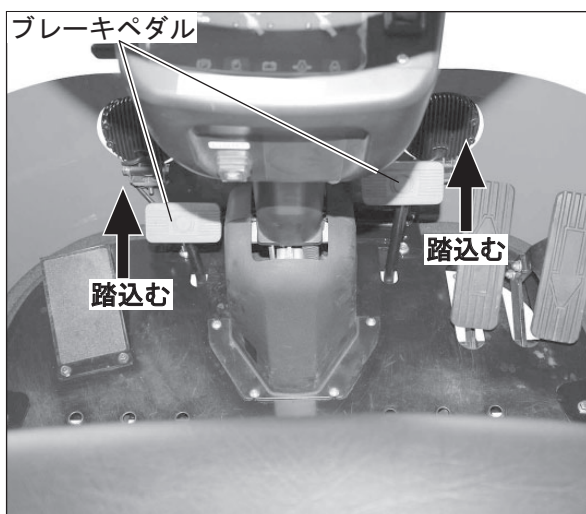
- ⑦荷台ダンプレバーを「上ル」位置にして荷箱を一番上までハイダンプさせ、扉開閉レバーを「開」位置にして芝カスを排出させます。



- ⑧排出作業が終わりましたら、荷台ダンプレバーを「下ル」位置にし、扉開閉レバーを「閉」位置にして、荷箱を一番下まで下げます。



※芝カスの排出時に本機を確実に停止させるために左右どちらかのブレーキペダルを踏込むと停止します。(左右のブレーキペダルは連動しています。)



[重要]

- 荷箱を下げるときは、山積の芝カス、またはトラックに当たらないように注意してください。
- 作業を行ったその日の内にブラシと荷箱の中のアミを洗浄してください。

6. 坂道での運転のしかた

⚠ 警告

- 坂道では、スピードに十分注意して、必ず「低速」で走行してください。
- 坂道では駐車をしないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。
- 上り坂で発進する場合は、ゆっくり発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。

7. 作業場への出入りのしかた

⚠ 警告

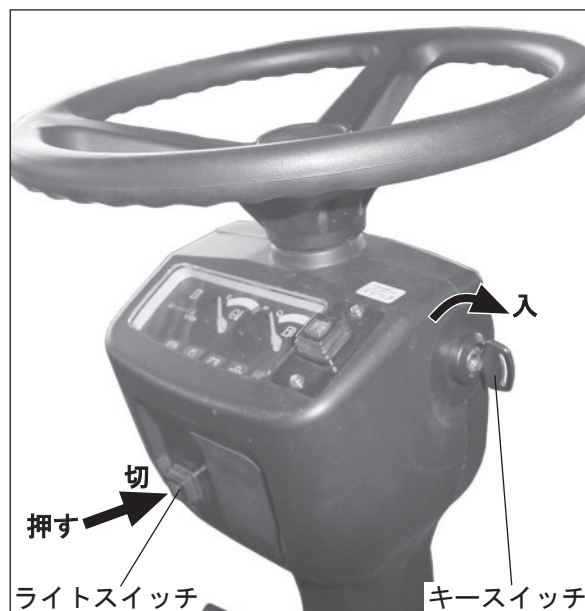
- 作業場への出入りや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷箱は空にして、重心を低くしてください。
- 急な傾斜を登るときは、「前進」で、降りる場合は「後進」の低い速度で行ってください。

[重要]

- 作業場への出入りは、作業場にたいして直角に出入りしてください。

8. ライトの使いかた

キースイッチを「入」位置にしてライトスイッチを押すとライトが点灯します。消すときはもう一度、ライトスイッチを押すと消えます。



[重要]

- エンジン停止中は、ヘッドライトを消してください。バッテリーが放電します。

9. トラックへの積込み・積降しのしかた

警告

- 積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、「車止め」をしてください。
- 使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。
- 荷箱を下まで一杯下げて、芝カスは積まないでください。
- 誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのハンドル操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。
- 積込みは「後進」、積降しは「前進」でゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。
- 本機があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。
- トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに「車止め」をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。

●長さ…トラックの荷台高さの4倍以上

●幅…本機のタイヤ幅の1.5倍以上

●強度…本機の総重量に十分耐えられるもの
(1本当たり)

●表面…すべり止めのあるもの

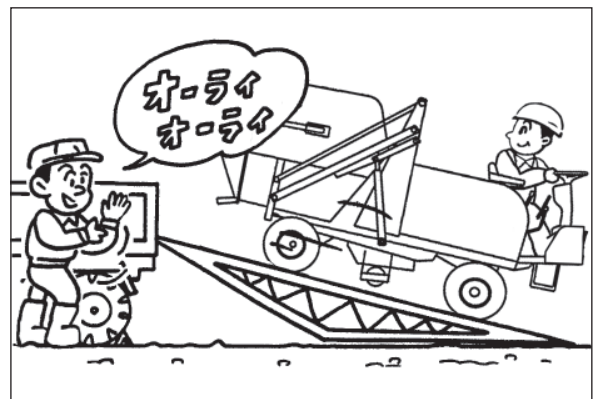
●形状…固定フックのあるもの

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④左右のタイヤがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤積込みの場合は「後進」で、積降しの場合は「前進」の低い速度で行ってください。

⑥積込み中、途中でエンジンがストップした場合は、いったん下まで降りてエンジンを再スタートしてください。



5章 作業後の手入れについて

⚠ 危険

- 燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。
 - シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。
-

⚠ 警告

- お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。
 - 格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず「**車止め**」をしてください。本機が自然に動いて事故になります。
-

⚠ 注意

- お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。
 - 近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。
-

1. 作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

⚠ 警告

- エンジン・マフラーなどの芝カス、草などは必ず取除いてください。そのまま運転しますと、火災の原因になることがあります。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。
-

[重要]

- 水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。
- 電装品には水を掛けないようにしてください。故障の原因となります。

2. 長期間使用しない場合 の手入れ

警告

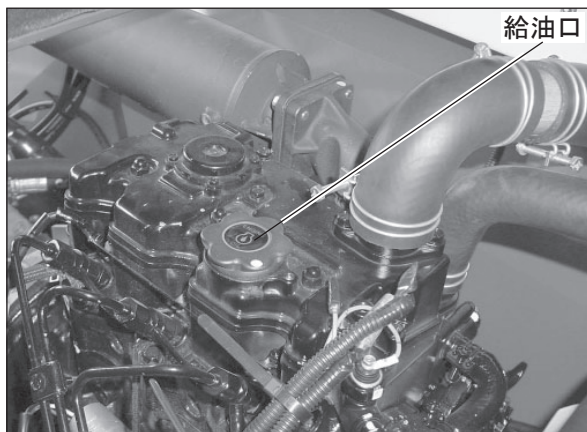
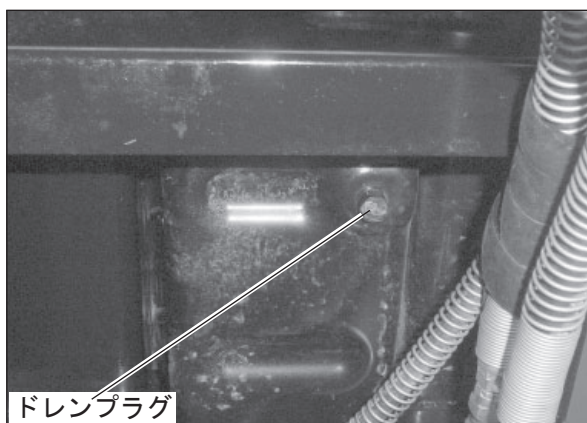
- 格納する場合は、バッテリーを外し、キーを抜き取り保管してください。守らないと事故をおこすおそれがあります。

[重要]

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

- ①点検時期の近い定期点検と整備は、格納する前にすませてください。
- ②エンジンカバーを開けて、エンジンオイルを抜出して、新油と交換してください。(P 57「4. エンジンオイルの点検・交換のしかた」参照)

※交換時期の目安はP 52を参照してください。



- ③約5分間、運転し、オイルを各部に行きわたらせてください。
- ④燃料タンクの結露防止のために、燃料は全て抜取るか、満タンにしてください。
- ⑤塗装のはげたところは、錆止め塗装などで補修してください。

エンジン以外の手入れ

- ①乾燥した風通しの良い所で、タイヤの下に板を敷いてください。ハイダンプ荷台は、降ろした状態にしてください。
- ②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- ③バッテリーは完全充電し、本機から取り出し、風通しの良い冷暗所に保管してください。
- ④タイヤは正規の空気圧にしてください。
(P 65参照)

[重要]

- バッテリーは使わなくても自然放電します。1ヶ月に1度は充電器で完全充電してください。
(P 63参照)

長期間格納後の注意

- 長期間(3ヶ月以上)格納後、本機を使用する場合は、運転前点検を念入りにしてください。
- エンジン始動後は、低速で10分以上の暖機運転を必ず行ってください。

6章 手入れと点検・調整について

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。
 - エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。
 - 荷箱を上げて点検、整備をするときは、必ず荷箱落下防止金具をセットしてから行ってください。
-

⚠ 警告

- 点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、タイヤに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。
-

⚠ 注意

- 1年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは2年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。
 - 点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。
 - 点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。
 - 部品の交換、および草・芝カスなどのゴミを取るときは、エンジンが十分冷えてから行ってください。
-

定期点検や整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するために、1年毎に販売店で定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は2年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

○=点検、△=清掃、●=交換

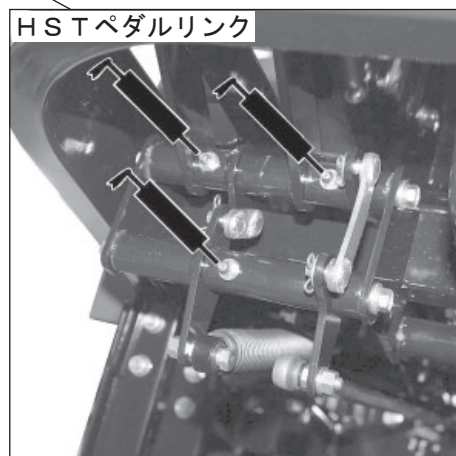
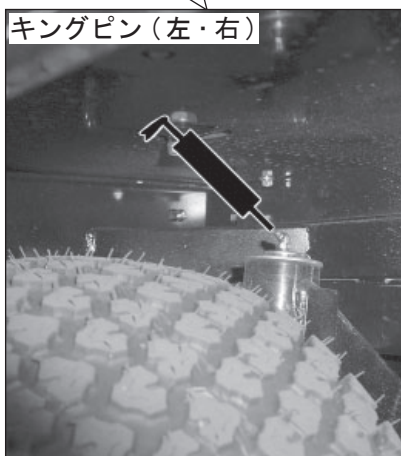
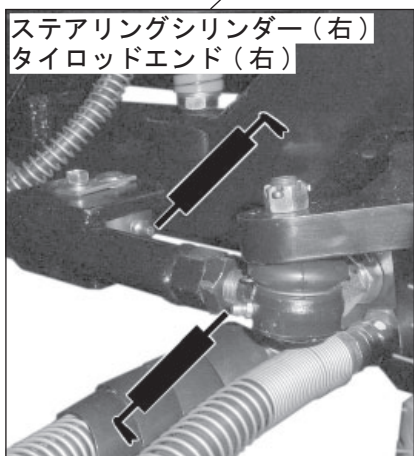
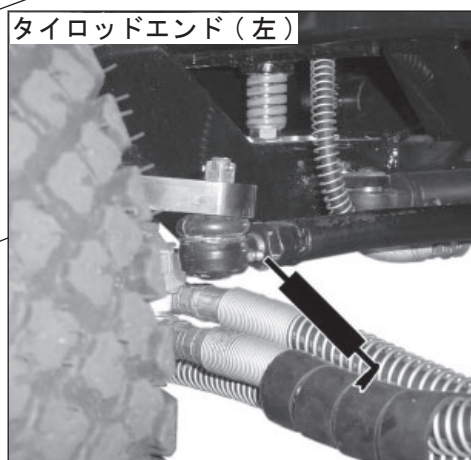
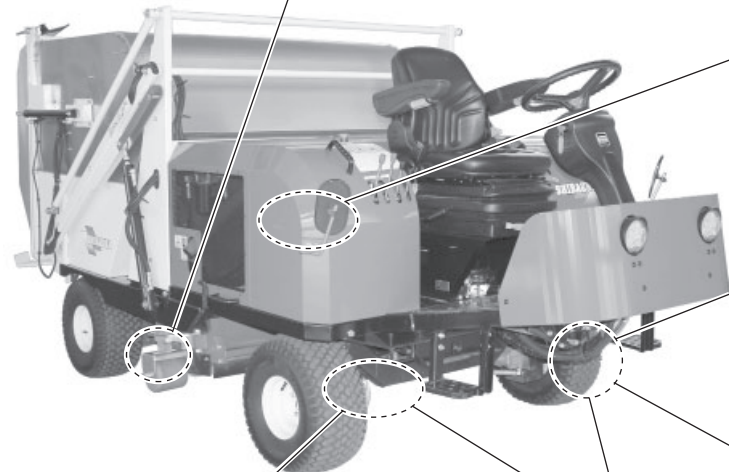
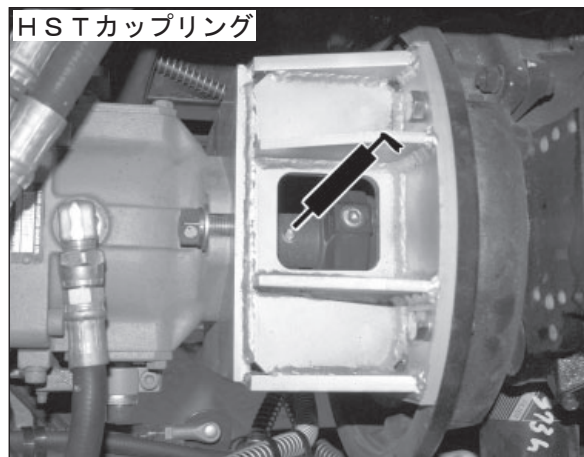
点検・調整箇所	項目	アワメータ表示時間														参照ページ		
		始業前	50時間毎	100時間毎	150時間毎	200時間毎	250時間毎	300時間毎	350時間毎	400時間毎	450時間毎	500時間毎	550時間毎	600時間毎	650時間毎			
エンジン	エンジンオイル	油量・汚れ	○	●		●		●		●		●		●		●	57	
	エアクリーナ エレメント	汚れ	○					△					●				59	
	冷却水	水量	○	1年毎に交換													56	
	オイルフィルタ	汚れ		●										●			58	
	燃料フィルタ	汚れ	○					△					●				61	
	燃料ホース	接続状態・ 亀裂	○	1000時間毎に点検、2年毎に交換													62	
	各ゴムホース	接続状態・ 亀裂																—
	燃料タンク	水抜き、 内部清掃		1000時間毎、または1年毎に水抜き、または内部の清掃													62	
本体	HSTペダル	作動・機能	○														66	
	ブレーキペダル	遊び・ 効き具合	○														66	
	駐車ブレーキ レバー	作動・ 効き具合	○														67	
	ブラシ・送風機 回転レバー	作動	○														68	
	タイヤ	空気圧・ 亀裂	○														65	
	各支点・摺動部	油・グリス	○														53	
	各部ボルト・ ナット	締付け状態	○														69	
	電気配線	接続状態・ 傷	○	1年毎に点検													62	
	バッテリー	液量・接続	○															63
	各部ワイヤ	外観・伸び	○															—
油圧部	HSTオイル	油量	○	●					●					●			59	
	カートリッジ フィルタ	汚れ	○	●				●				●				●	60	
	油圧ホース	接続状態・ 亀裂	○	始業前点検で異常が見つかったら交換													—	
	油圧シリンダ	油漏れ	○															—

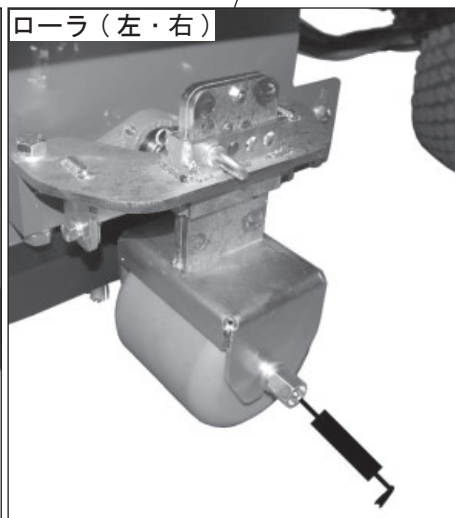
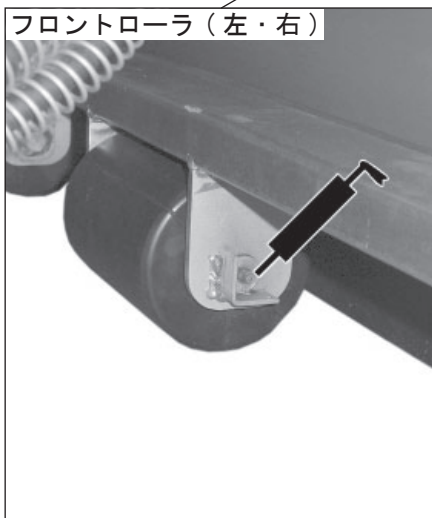
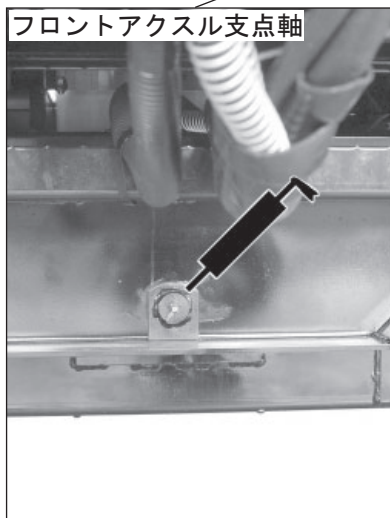
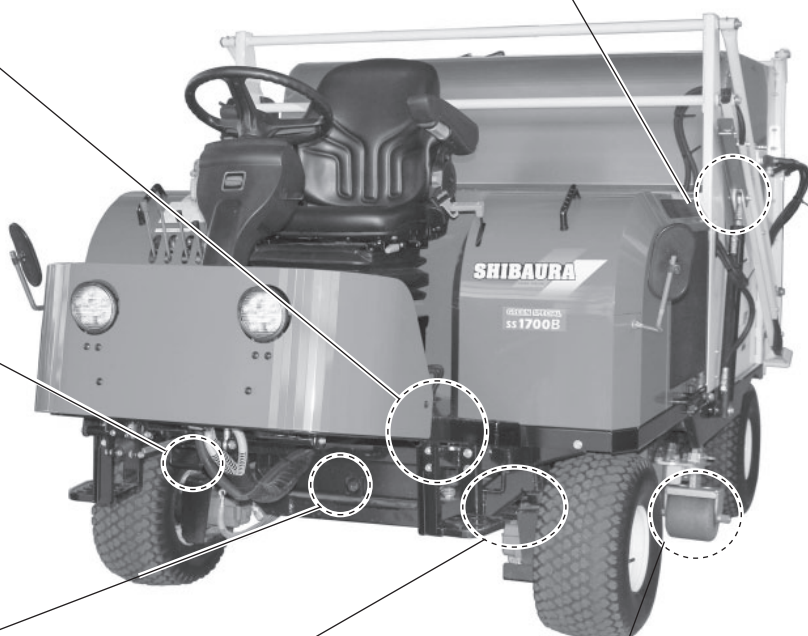
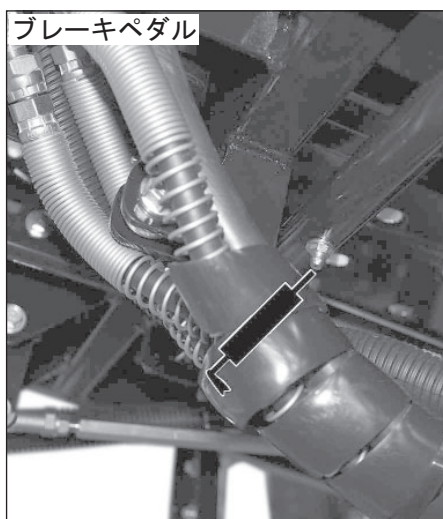
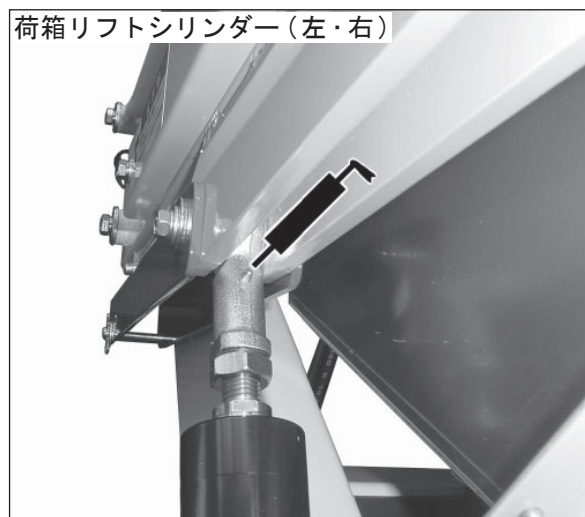
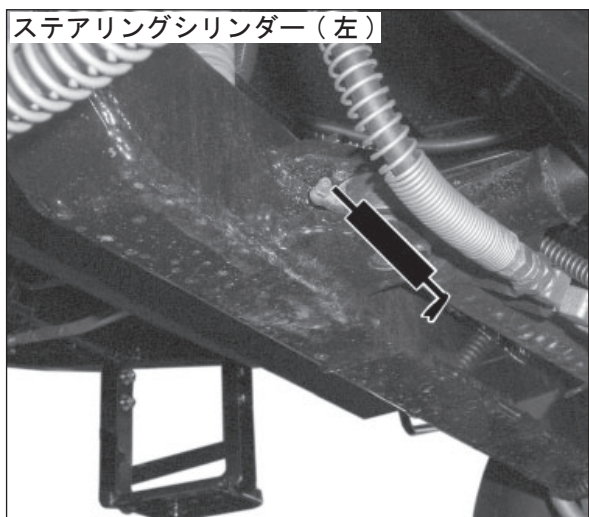
2. 各部のグリスアップのしかた

⚠ 注意

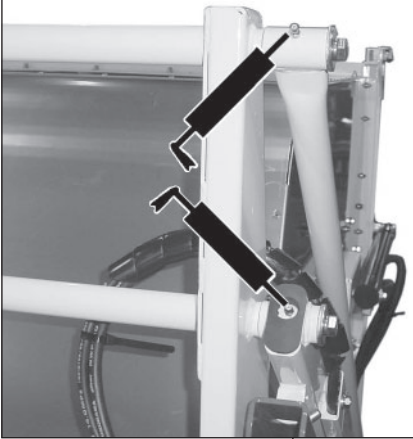
- 記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。
- 定期的にグリスポンプで確実に注油・グリスアップをしてください。

< 凡例 >  グリスアップ位置





荷箱アーム支点（左・右）



荷箱アーム支点（左・右）



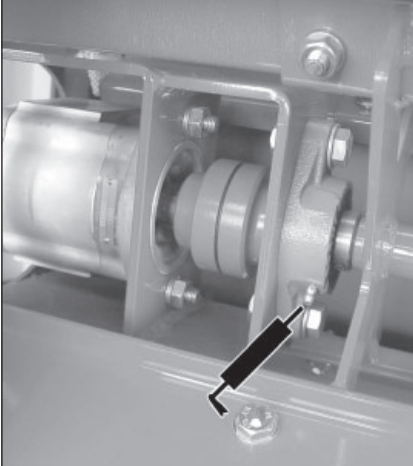
満杯スイッチ支点



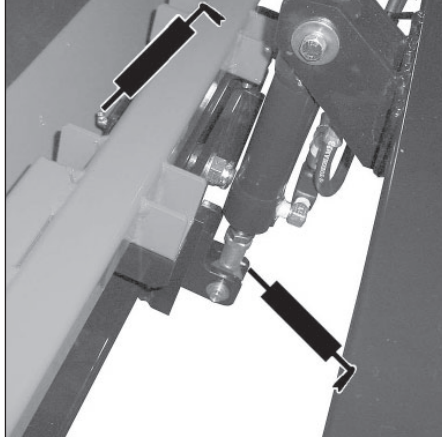
送風機ピローブロック（右）



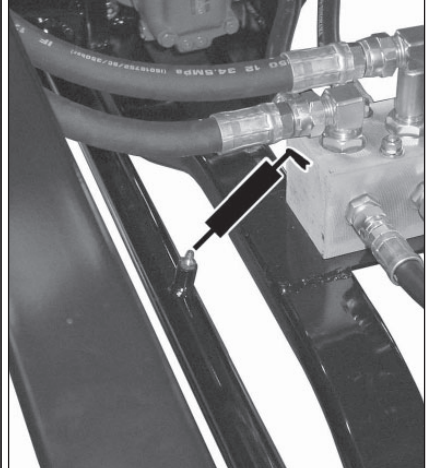
送風機ピローブロック（中）



ブラシイングザイ支点ピン
ブラシ帯上下シリンダー



ブラシ帯リフトアーム



3. ラジエタの 点検のしかた

⚠ 危険

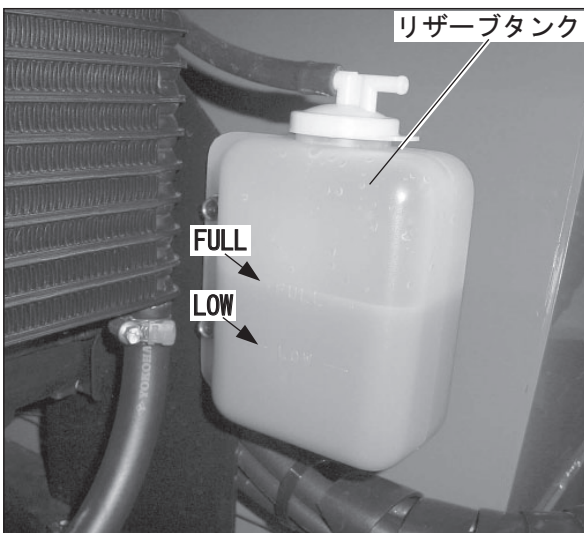
- 運転中や停止直後は、ラジエタキャップを開けると蒸気・熱湯が噴出して危険です。温度が下がるのを待ち、布などで包んで静かにゆるめてください。
- ラジエタキャップは確実に締めてください。締りが不十分ですと、運転中に蒸気や熱湯が噴出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 注意

- 不凍液の混合比率が適切でなかったり、不凍液を使用しなかったりする場合は、エンジン内部で冷却水が凍結して膨張するため、水路系の部品が破損するおそれがあります。

点検

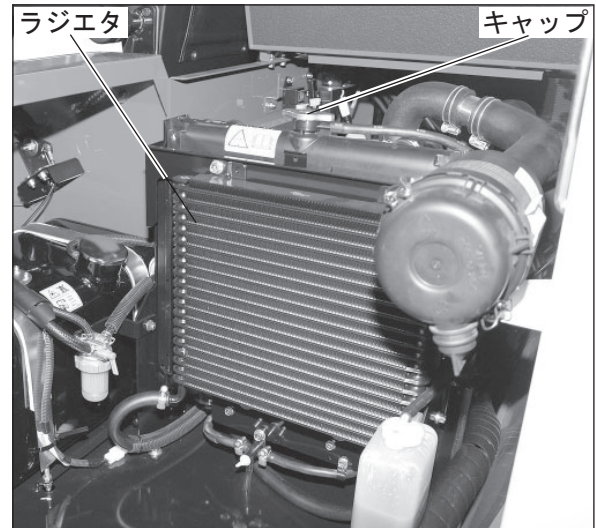
P 32の「カバーの開けかた」の要領で左側カバーを開けて、リザーブタンク内の冷却水が「FULL」～「LOW」の範囲内にあることを確認してください。



給水

冷却水が「LOW」の線より少ない場合は、リザーブタンクのキャップ部から「FULL」の線まで補給してください。

※リザーブタンクに冷却水がない場合は、ラジエタのキャップ部から口元まで補給してください。

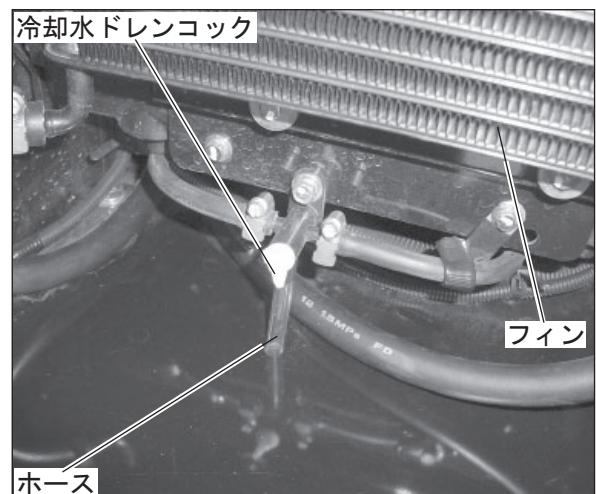


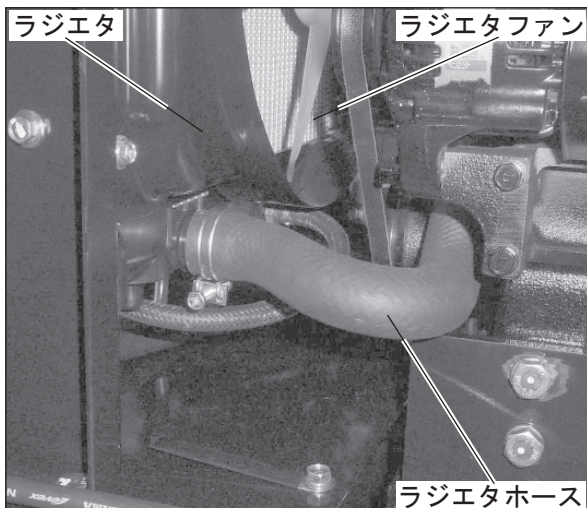
[重要]

- 通常の点検と補給では、ラジエタのキャップは開けないでください。

交換

冷却水は1年毎に交換してください。冷却水ドレンコックを回して行ってください。冷却水は下のホースを通して出てきますので容器にこぼさないように受けてください。同時にラジエタフィンに付着したゴミや埃も掃除してください。





冷却水の注入はエアの混入を避けるために徐々に行ってください。冷却水注入後、5分程度運転します。内部のエアが抜けて水位が下がりますのでエンジンを停止させてエンジンが冷えた後、冷却水の量を確認してください。少ない場合は冷却水を補給してください。

冷却水

冷却水は「水道水」などの水質の良好な軟水に、不凍液「ロングライフクーラント（LLC）」を混合したものを使用してください。不凍液の濃度は気温により調整してください。通常、濃度は「30～50%の範囲」で使用します。30%以下では錆が生じやすくなり、50%以上では、オーバーヒートしやすくなるとともに、シール部品をいためる原因にもなります。

不凍液の混合比率（参考）

最低気温（℃）	-15	-20	-25	-30	-35
混合比率（%）	30	35	40	45	50

※冷却水容量は（4.5L）を上の方の割合で混合します。

[重要]

- 異なった種類の不凍液を混ぜ合わせて使用すると、冷却性能を悪くしたり、部品の腐食を引き起こす原因になりますので、混用しないでください。

4. エンジンオイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

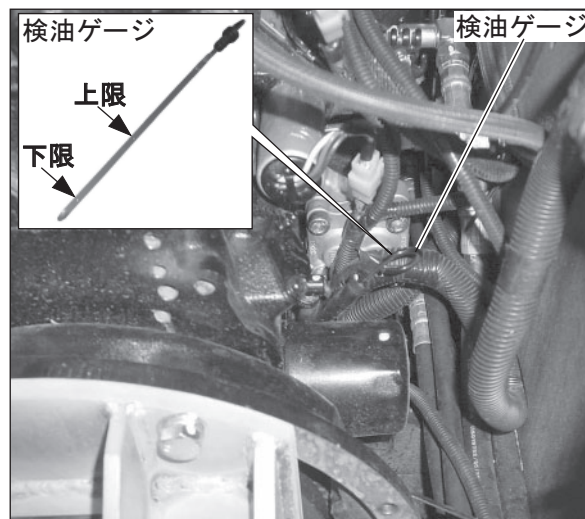
[重要]

- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておく、と、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

エンジンオイル

点検

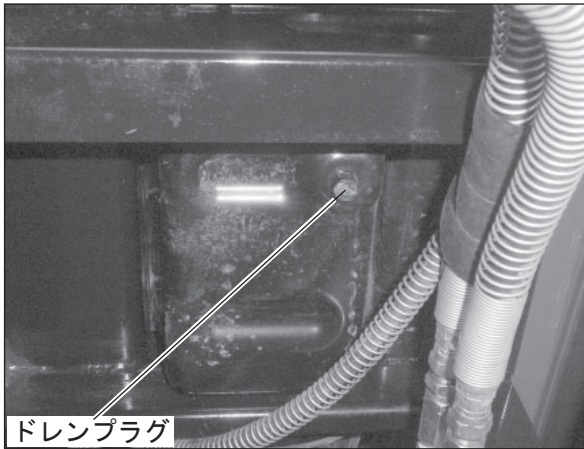
- ①機械を水平な場所に置きます。P 32の「カバーの開けた」の要領で右側カバーを開けて、検油ゲージでオイル量を調べます。
- ②検油ゲージの先端をきれいにふき、再びいっばいに差込んで静かに抜いて、検油ゲージの「上限」と「下限」の間にオイルがあるかを調べてください。このときにオイルの汚れや粘りの程度も点検してください。



交換

- ①エンジン内に異物が混入しないようにオイルキャップ周辺をきれいにしてから、オイルキャップを外してください。
- ②エンジンや機械を汚さないように、廃油受けを準備し、オールドレンプラグを外してオイルを完全に排出してください。

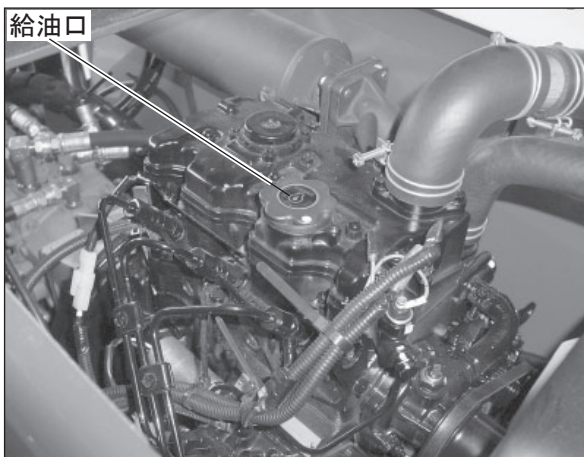
※エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。



- ③ オイルが完全に排出できたら、新しいシールワッシャに交換してドレンプラグを取付けてください。
- ④ 異物が混入しないように注意して、新しいオイルを給油口から給油（4 L）します。オイルがオイルパンに完全に下るの待ってから（約10分）、検油ゲージでオイル量を確認してください。

エンジンオイルCD級以上（マルチグレードオイル）

- SAE10W-30（-20℃～30℃）
- SAE15W-40・SAE20W-40（-15℃以上）



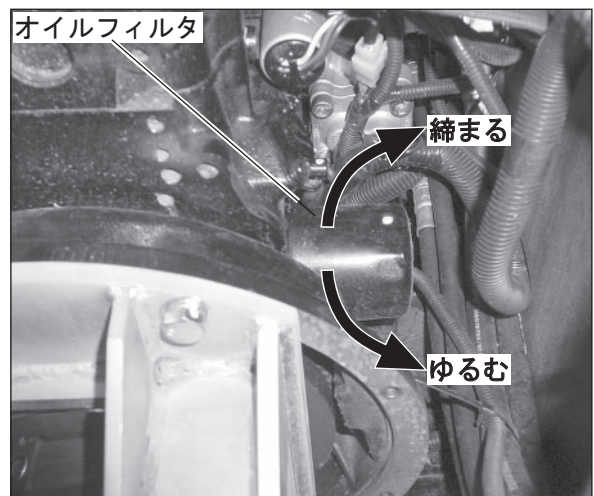
[重要]

- オイルの量はエンジンを停止して10分～20分後に調べてください。
- 給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。
- エンジンが熱いうちは行わないでください。
- 熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

- エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが噴き出し衣服などを汚すおそれがあります。
- 給油をするオイルは、必ず、規定のオイルを使用し、「上限」以上には入れないでください。エンジンの故障の原因になります。
- オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。

オイルフィルタの交換

- ① フィルタレンチなどでオイルフィルタを取外してください。オイルフィルタを取外するとき内部のエンジンオイルが流れ出すことがありますので注意してください。
- ② オイルフィルタ取付面をきれいに清掃し、新しいオイルフィルタのガスケット（Oリング）にエンジンオイルをうすく塗布して取付けてください。
- ③ オイルフィルタの締付けは工具を使用せず、必ず手で行ってください。ガスケットが取付面に当たってから「約3／4回転」締付けてください。



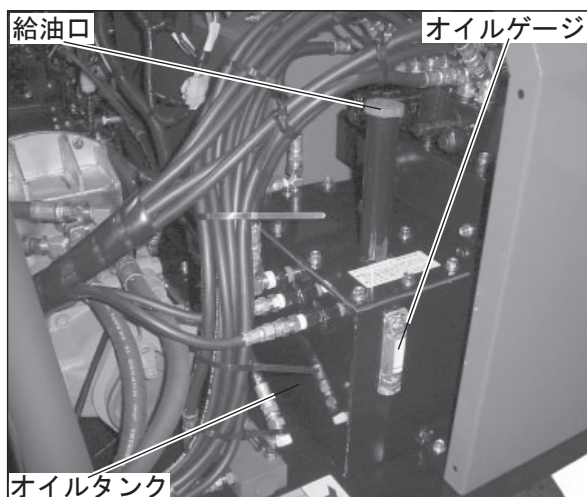
エンジンオイル・オイルフィルタの交換後の点検

- ① エンジンを始動させ、油圧警告灯が消えていることを確認し、3分間以上運転しても油もれのないこと確認してください。
- ② 運転をするとオイルフィルタや油路にエンジンオイルが行きわたるため、オイルレベルが上がります。エンジンを停止させ10分～20分後に、エンジンオイルの量を再点検し、不足している場合は規定レベルまでオイルを補給してください。

5. HSTオイルの点検・交換のしかた

点検

油もれのないことを調べてください。エンジンカバーを開けてHSTオイルタンク横のオイルゲージでHSTオイル残量を調べ、不足している場合は、補給してください。

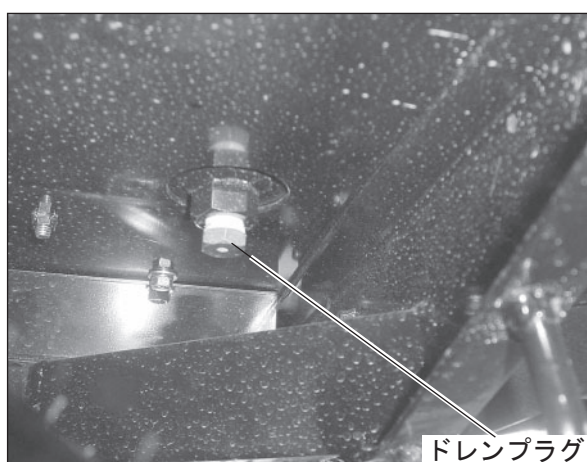


交換

HSTオイルタンク下部のドレンプラグを外して、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。給油は、規定量(30L)入れ、各部のシリンダーを操作して、もう一度オイルゲージでオイル量を確認し、不足している場合は補給してください。

HSTオイル

油圧作動油	ISO VG 46
-------	-----------



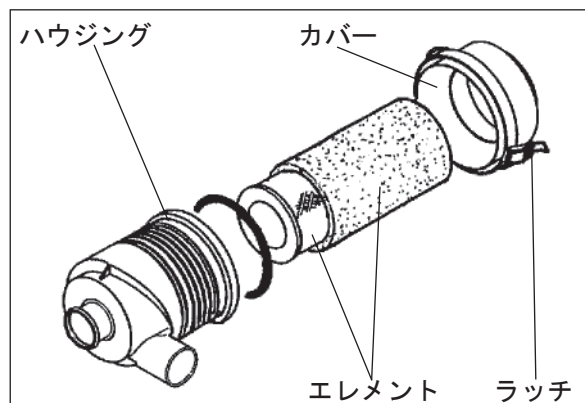
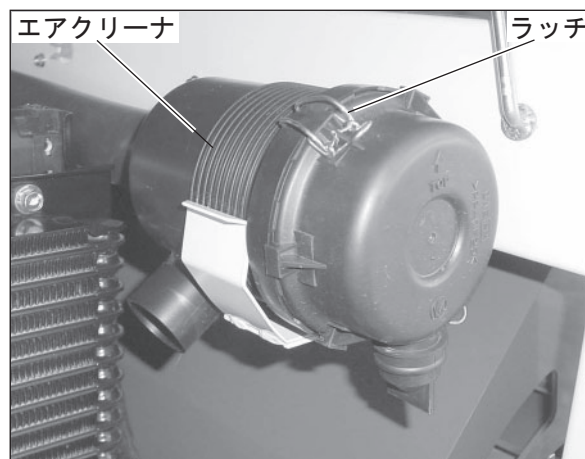
[重要]

- 給油口のキャップを回し過ぎないようにしてください。回し過ぎるとネジ部を痛めます。

6. エアクリーナの掃除・交換のしかた

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

- ① カバーのラッチをすべて外し、カバーを取外します。ダストが堆積している場合には、取除きます。



- ② エレメントの端を持って上下左右に動かしたり回転させたりしてゴミ・埃が飛ばないように静かにエレメントを抜出します。
- ③ ハウジング内のシールチューブ内外面を清掃後、エレメントの内部から圧縮空気を折り目に沿って上下するように吹付けて清掃をします。
- ④ 汚れがひどいときは、水または中性洗剤を溶かした液に30分程度、エレメントのシール部を上にして液面より、突出させて汚水がエレメント内側に侵入しないよう浸漬し、その後、汚水がでなくなるまで、水ですすぎ洗いし、自然乾燥させてください。

※ 圧縮空気でエレメントの乾燥は、しないでください。

- ⑤エレメントをセットする前に、エレメントシール部の異常・その他損傷がないか確認し、異常があれば新しいものと交換してください。
- ⑥エレメントをセットするとき、ハウジング内のシールチューブにエレメントシール部が正しくセットされたことを確認し、エレメントの外周部を押して奥まで十分に挿入されたことを確認してください。
- ⑦カバーを押え込みながらラッチのフックが正規の位置に掛かっていることを確認してから、ラッチを止めてください。

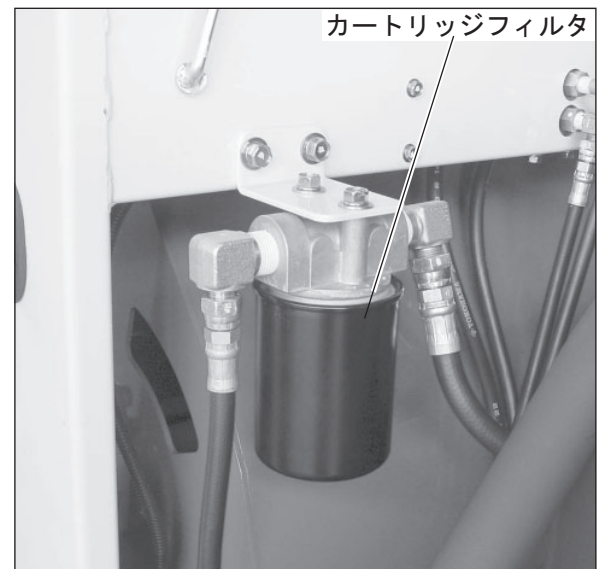
清掃	250時間毎
交換	500時間、または1年毎

【重要】

- 埃の多い場所で使用される場合は清掃・交換時期を早めに行ってください。

7. カートリッジフィルタの交換のしかた

カートリッジフィルタは200時間毎に交換してください。



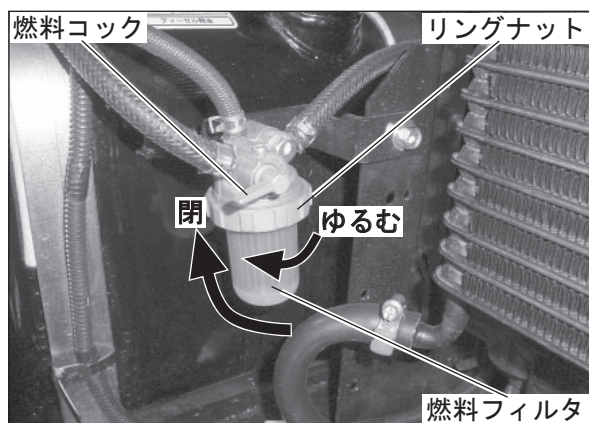
8. 燃料フィルタの交換のしかた

⚠ 危険

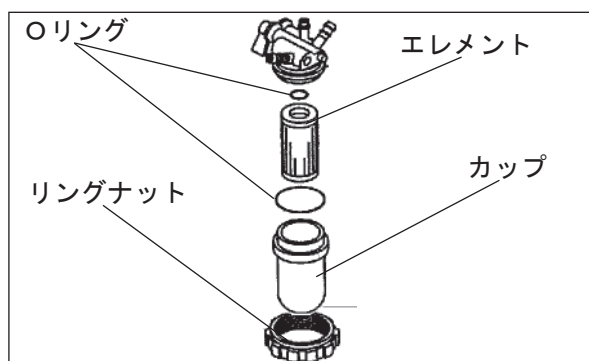
- 燃料コックが「開」になったままでカップを外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「閉」にしてください。

燃料の中に入ったゴミや水が、燃料フィルタに沈殿したときは、燃料フィルタを外してゴミや水を抜取ってください。

- ① 燃料コックを「閉」にします。
- ② リングナットをゆるめてカップを取外します。
- ③ カップを軽油または洗浄油できれいに洗います。



- ④ 内側のエレメントを下方に抜き取って、新しいエレメントと交換して取付けます。このときにOリングも新しい物に交換してください。



- ⑤ 燃料フィルタを元の通りに取付け、リングナットを締付けます。

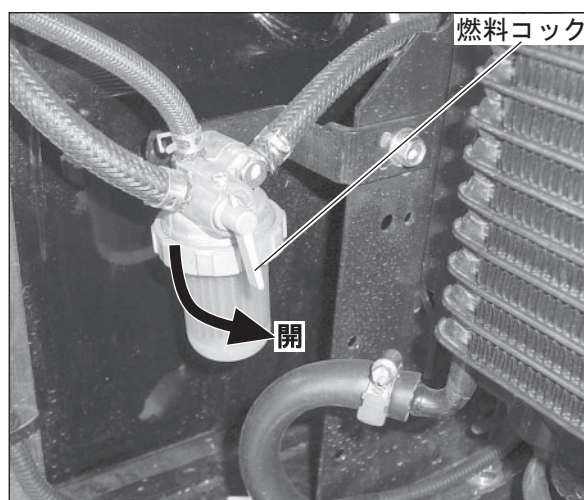
【重要】

- ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。

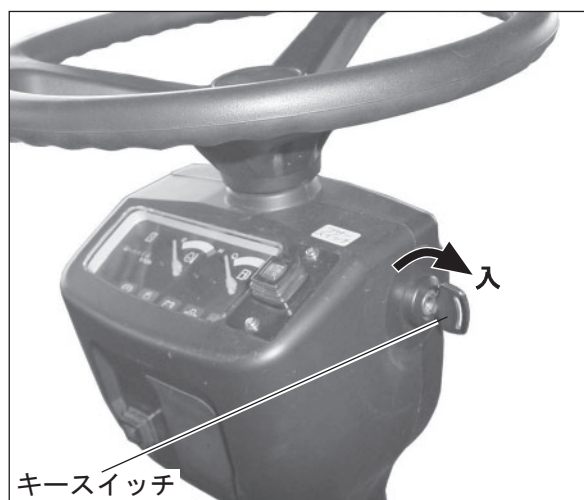
9. エア（空気）抜き のしかた

燃料系統にエア（空気）が混入すると始動不良やエンジン不調の原因となります。燃料フィルタを交換したときや燃料タンクを空にしたときは、必ずエア抜きを行ってください。

- ① 燃料タンクの残量を調べ、少ないようなら補給します。
- ② 燃料コックを「開」にします。



- ③ キースイッチを「入」位置にして、電磁ポンプを作動させると燃料系統内のエアが自動的に燃料タンクへ抜けていきます。



※ エンジンを始動後、燃料系統にもれがないか点検してください。

10. 燃料タンクの水抜き 洗浄のしかた

燃料タンク内に水がたまったり汚れたりします。定期的（1000時間毎、または1年毎）に、次の要領で清掃してください。

- ①ドレンプラグ（タンク下部）をゆるめます。（少しずつ抜く）
- ②完全に抜けたら、ドレンプラグをしっかりねじ込んでください。



11. 燃料ホース・電気配線の 点検のしかた

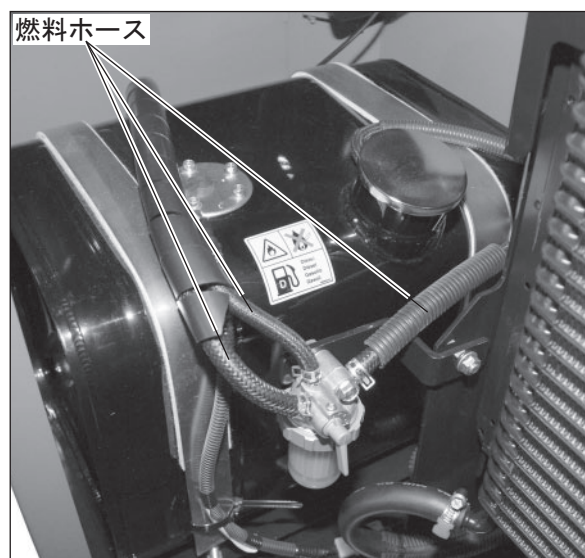
⚠ 危険

- 燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

⚠ 注意

- 配線コードに付着している芝カスやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

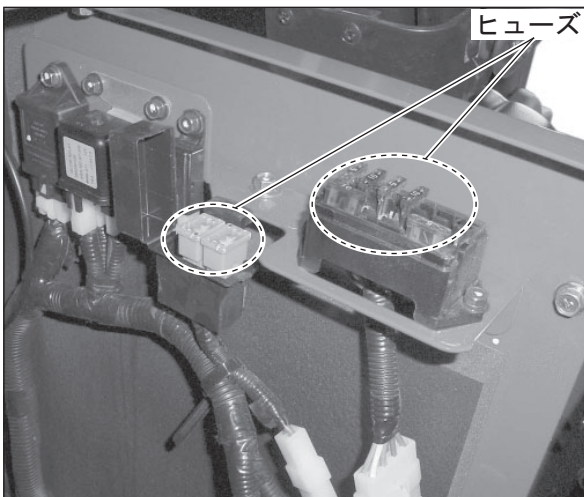
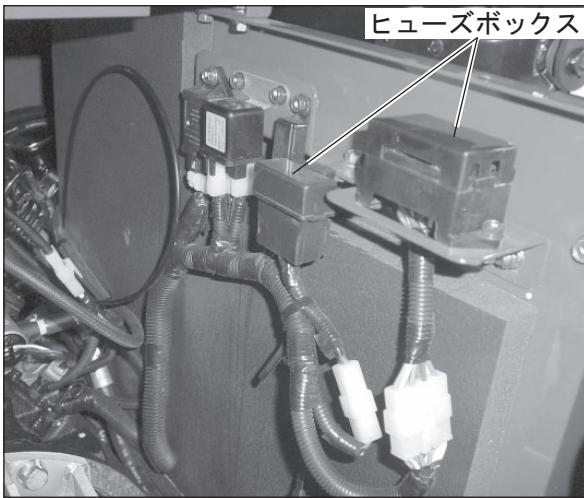
燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。燃料ホースは傷んでいなくても2年毎に交換するようにしてください。電気配線は1年毎に定期点検を受けてください。



12. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流を遮断します。

エンジンカバーを開けて、バッテリーの横にヒューズボックスが2つあります。ヒューズ切れの場合はヒューズボックスを開けて交換してください。



[重要]

- ヒューズを交換するときは、バッテリーの⊖側コードを外してから、必ず規定容量のものと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因になります。
- ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、お買い上げいただいた販売店で点検を受けてください。

13. バッテリーの点検、整備のしかた

⚠危険

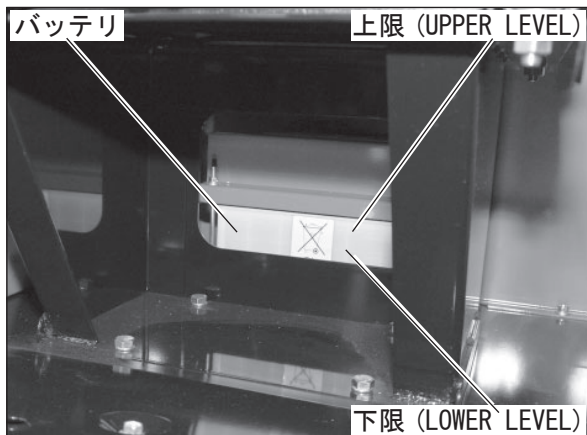
- バッテリーの点検・充電時は火気厳禁です。守らないと引火爆発し、火傷を負うおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸ですので身体や服に付くと、服が破れたり、火傷を負うことがあります。もし、身体や服に付いたときは、すぐに水洗いをしてください。
- バッテリーからコードを外すときは、必ず⊖側から外し、取付けるときは、必ず⊕側から取付けてください。工具などが接触したときにショートして、火傷や火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリー⊕ターミナルのゴムブーツは必ず取付けておいてください。ショートすると火傷や火災事故をまねくおそれがあります。
- バッテリー充電中は、ガスが発生しますので風通しの良い場所で行ってください。

⚠警告

- バッテリー液は液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあることを確認してください。もし「下限 (LOWER LEVEL)」以下になると、容器内の極板接続部が露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

バッテリー液点検

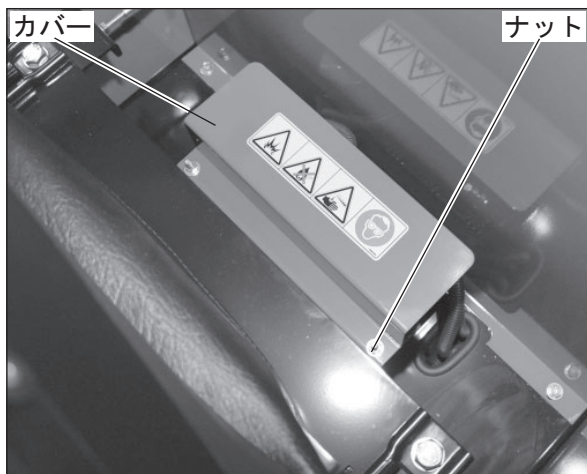
作業前には、各槽のバッテリー液がバッテリーケース液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」と「下限 (LOWER LEVEL)」の間にあるか確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



※蒸留水はガソリンスタンドで販売しています。

補充電のしかた

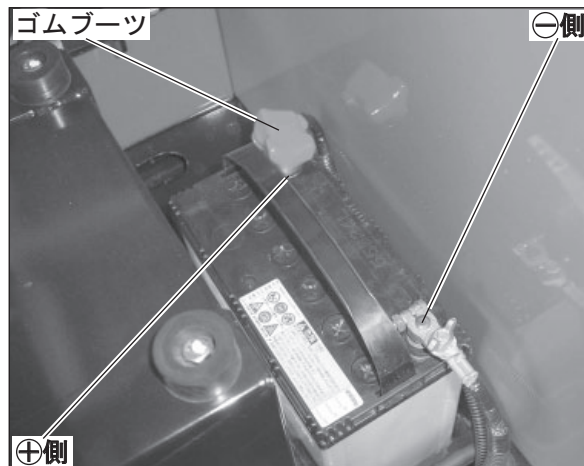
- ① バッテリーカバーのナットをゆるめ、バッテリーカバーを取外します。



- ② バッテリーの⊖側のコードを取外し、次に⊕側のコードを取外します。
- ③ 充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕側に、バッテリーの⊖を充電器の⊖側に接続して行いますが、詳しくは、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

※なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。

指定バッテリー	55B24L
---------	--------



- ④ バッテリーを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

格納のしかた

格納時は、本機を水平にし、バッテリー液がこぼれないようにしてください。

長期格納時は、バッテリーの⊖側のコードを取外すか、バッテリーを本機から取外し、日光が当たらない、乾燥した場所に保管してください。

[重要]

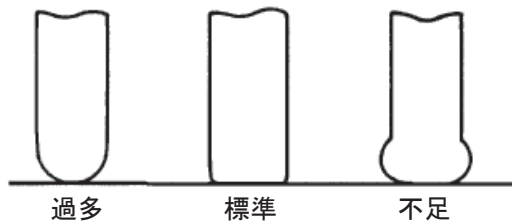
- バッテリー液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリー液をバッテリーケース液面レベルの「上限 (UPPER LEVEL)」を超えるほど入れますと、使用中に液もれし、本機を腐食させることがありますので、補給するときは、液面レベル「上限 (UPPER LEVEL)」を超えないように注意してください。
- 寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきましたら、補充電を行ってください。また、2週間以上運転しないと、バッテリーが放電してエンジンの始動ができなくなる場合があります。このときにも補充電をしてください。
- 本機を長時間使用しないときは、最低1ヶ月に1回は補充電を行ってください。バッテリーが長持ちします。
- 取付けのとき、ターミナル接続部の油などを布でふき取り、バッテリー端子を確実に締付けて、腐食防止のためにターミナル部にグリスを塗布してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず規定のバッテリーを使用してください。
- 環境保全のため、交換した古いバッテリーは放置したり、捨てたりせずに、新しいバッテリーを購入した店へ渡してください。

14. タイヤ空気圧の調整のしかた

⚠ 注意

- 左右の空気圧が均等になっていないと運転中にハンドルを取られることがあります。タイヤの空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

タイヤサイズ	空気圧 KPa (kgf/cm ²)
20×10.00-8	150 (1.5)

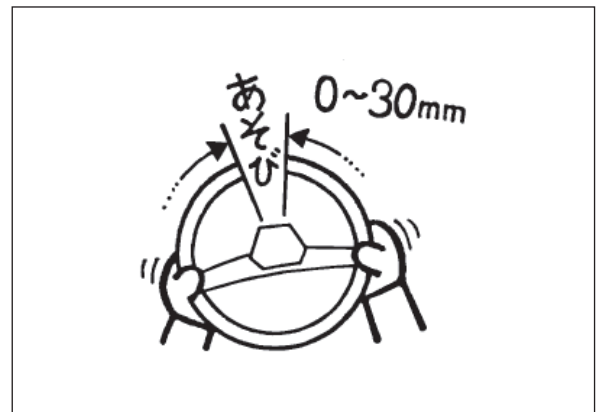


15. ハンドルの点検のしかた

⚠ 警告

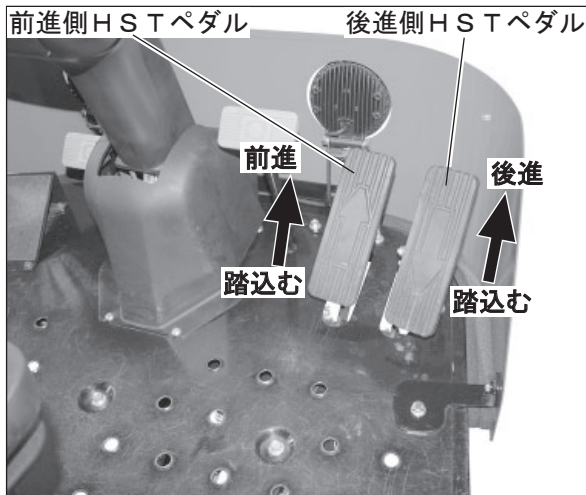
- ハンドルに著しくガタや遊びがないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量が0～30mmの範囲であるか確認してください。遊び量が適正でない場合は、お買上げいただいた販売店で点検、調整を受けてください。



16. HSTペダルの点検のしかた

HSTペダルで「前進」・「後進」が、確実にできるか確認してください。もし、不具合がありましたら、お買い上げいただいた販売店で必ず点検・調整を受けてください。



17. ブレーキの点検、調整のしかた

警告

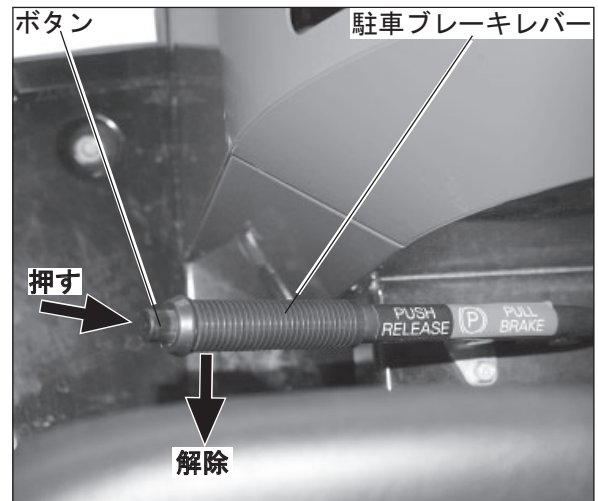
- ブレーキ調整を行う際は、ブレーキが解除の状態になりますので水平な場所で車止めをして行ってください。守らないと機体が自然に動きだし、思わぬ事故がおき大変危険です。

ブレーキの効きが悪くなったときは次の要領で点検、調整を行ってください。

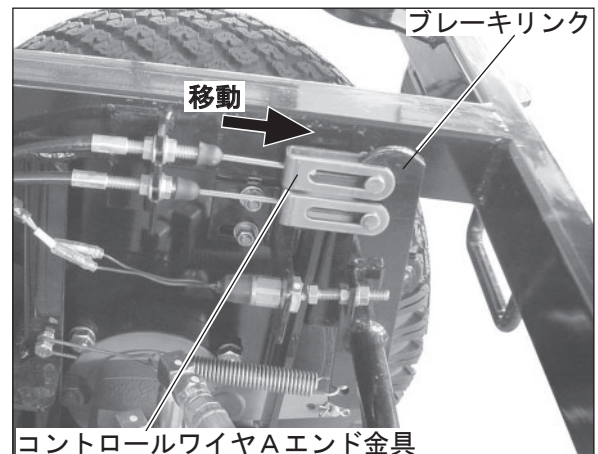
ブレーキペダル

点検

- ①駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。

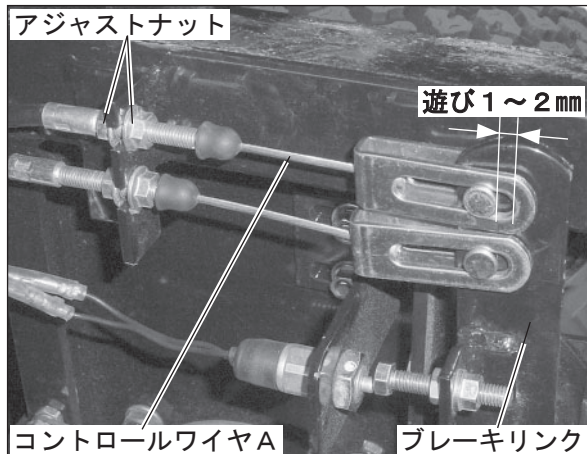


- ②コントロールワイヤAエンド金具をブレーキリンク側に移動させたときのコントロールワイヤAエンド金具（ブレーキペダル用）の長穴の遊び（1～2mm）を調べてください。



調整

- ① 駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。
- ② 遊びが 1～2mm になるようにコントロールワイヤAのアジャストネジで調整します。調整後はアジャストナットを確実に締付けます。

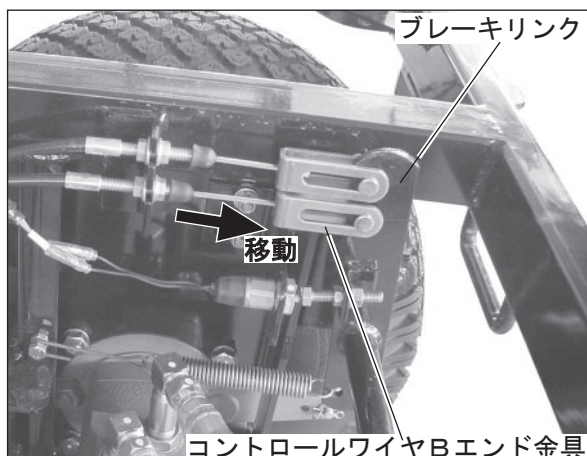


※調整についてはお買い上げいただいた販売店にご依頼ください。

駐車ブレーキレバー

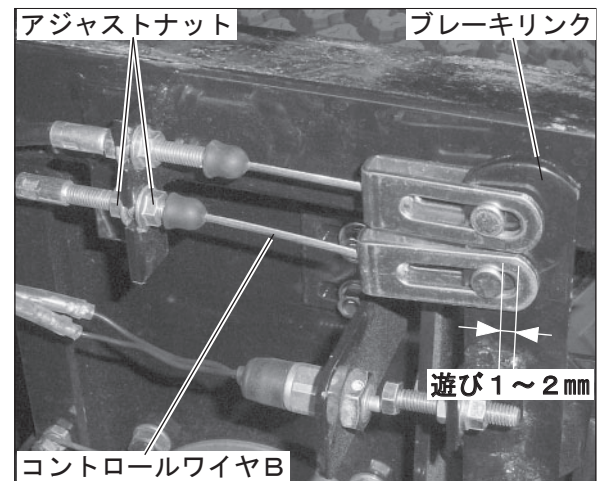
点検

- ① 駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。
- ② コントロールワイヤBエンド金具をブレーキリンク側に移動させたときのコントロールワイヤBエンド金具（駐車ブレーキレバー用）の長穴の遊び（1～2mm）を調べてください。

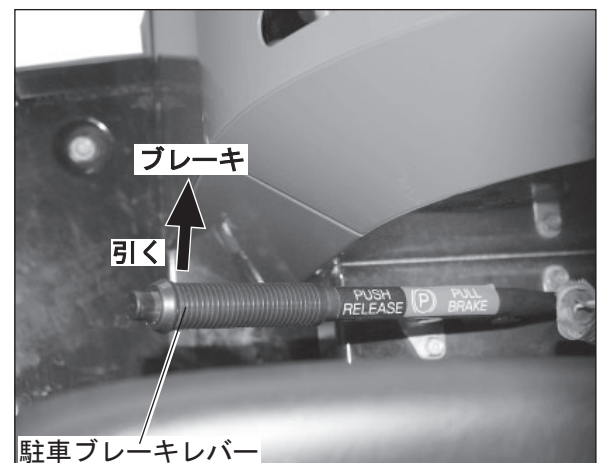


調整

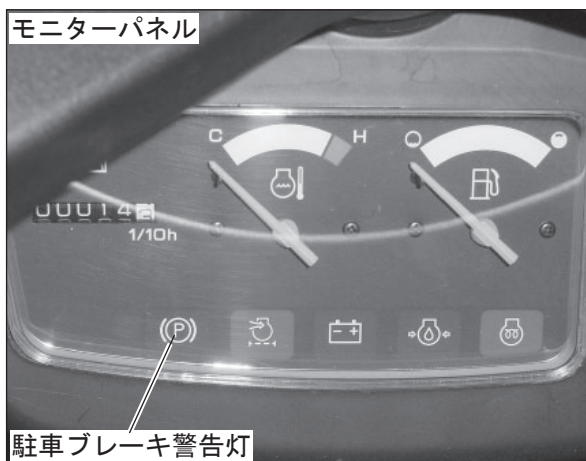
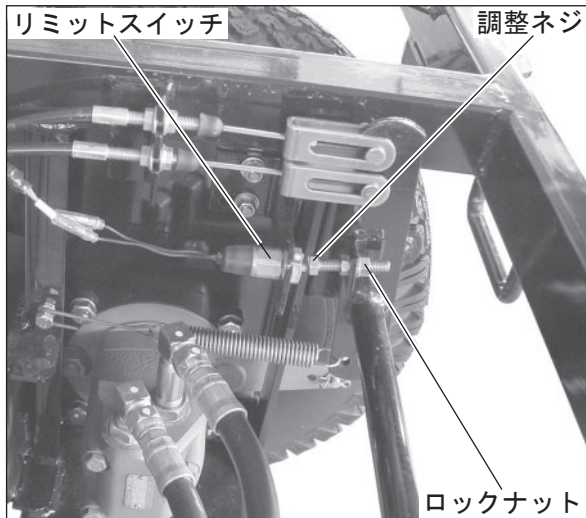
- ① 駐車ブレーキレバーを「解除」位置にします。
- ② 遊びが 1～2mm になるようにコントロールワイヤBのアジャストネジで調整します。調整後はアジャストナットを確実に締付けます。



- ③ 駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にします。



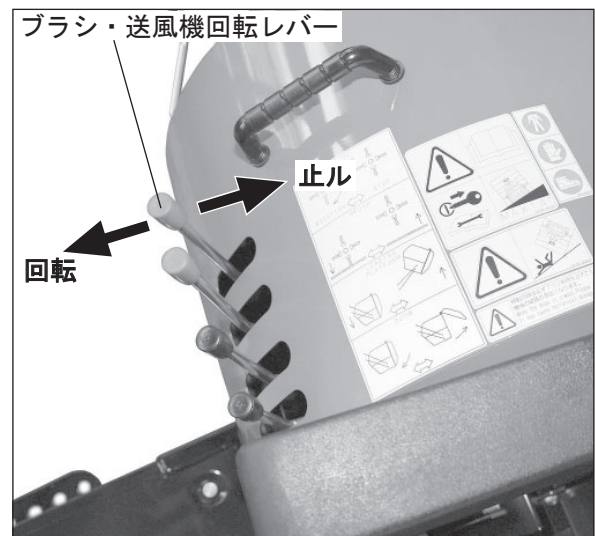
- ④調整ネジがリミットスイッチにあたり駐車ブレーキ警告灯が点灯するようになるまでロックナットで調整します。調整後はロックナットを確実に締付けてください。



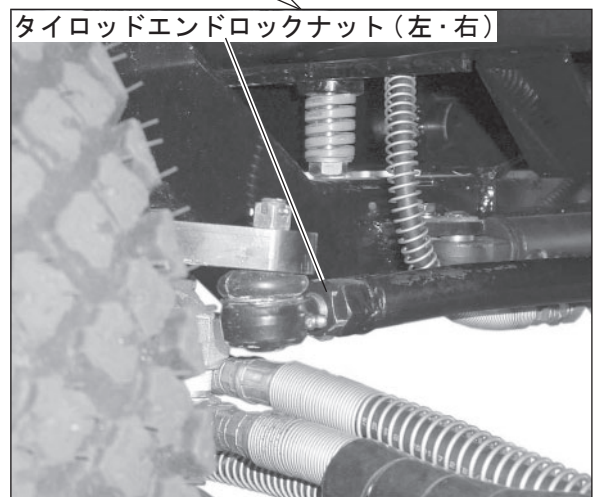
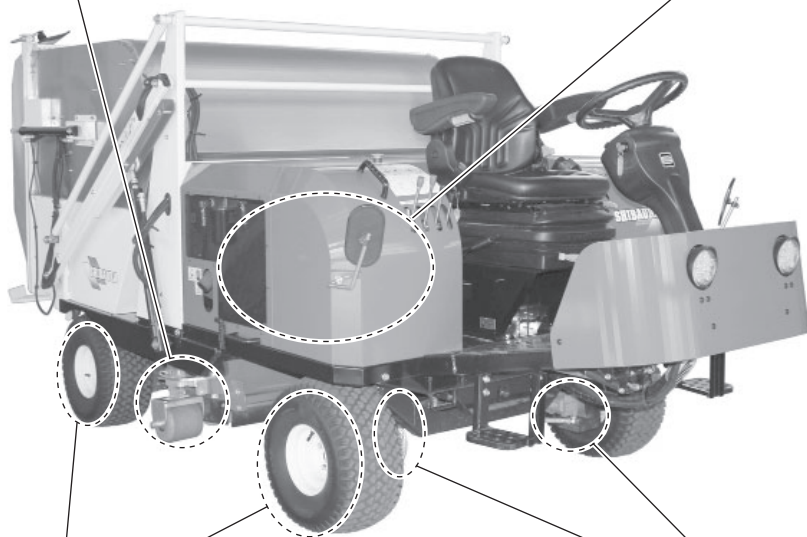
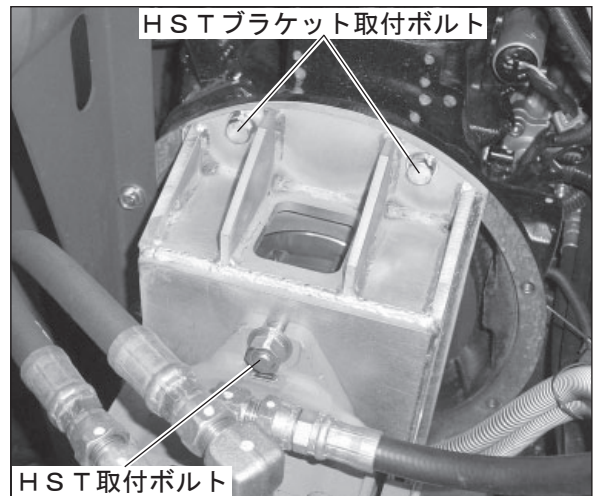
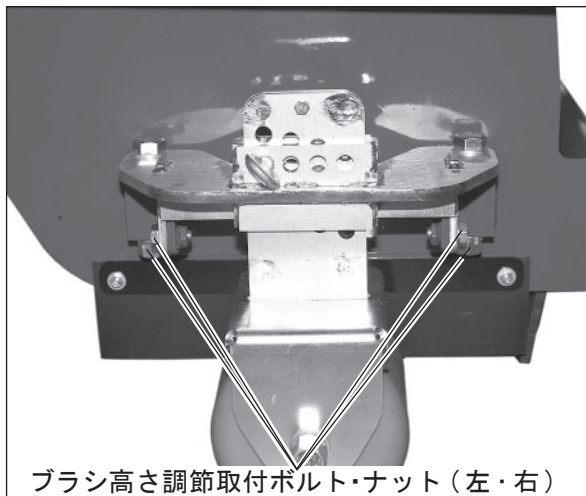
※調整についてはお買上げいただいた販売店にご依頼ください。

18. ブラシ・送風機 回転レバーの 点検のしかた

「回転」、「止ル」が確実に行われているか点検してください。もし不具合がありましたら、お買上げいただいた販売店で必ず点検・調整を受けてください。



19. 締付けするところ



※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

7章 不調診断

警告

- 機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、ブラシ・送風機回転レバーを「止ル」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、最寄の販売店に連絡してください。

故障状況	原因	処置	参照ページ
セルモータが回転しない	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。	63
	駐車ブレーキリミットスイッチの調整不良ではありませんか。	販売店で調整してください。	68
	セルモータの不良ではありませんか。	販売店で修理または交換してください。	—
	キースイッチの不良ではありませんか。	販売店で交換してください。	—
	ヒューズが切れていませんか。	販売店で配線系統を点検、修理して新しいヒューズと交換してください。	63
	ブラシ・送風機回転レバーが「回転」位置に、駐車ブレーキレバーが「解除」位置になっていませんか。	ブラシ・送風機回転レバーを完全に「止ル」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてから、キースイッチを「スタート」位置に回してください。	36
	非常停止スイッチが「停止」状態になっていませんか。	回して「解除」してください。	40
エンジンが始動しない	燃料切れしていませんか。	軽油を補給してください。	32
	燃料系統に空気が入っていませんか。	燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料ホース点検してください。	61
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。	61
	エアクリナーエレメントが目詰まりしていませんか。	清掃または交換してください。	59
	グロープラグが断線していませんか。	販売店で交換してください。	—
	ヒューズが切れていませんか。	配線系統を点検、修理して新しいヒューズと交換してください。	63
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	34
	ブラシ・送風機回転レバーが「回転」位置に、駐車ブレーキレバーが「解除」位置になっていませんか。	ブラシ・送風機回転レバーを完全に「止ル」位置にし、駐車ブレーキレバーを「ブレーキ」位置にしてから、キースイッチを「スタート」位置に回してください。	37

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジンが不規則に回転する	燃料系統に空気が入っていませんか。	燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料ホース点検してください。	61
	燃料に水が混入していませんか。	水抜き、または新しい軽油と交換してください。	62
	燃料ノズルが不良ではありませんか。	販売店で修理または交換してください。	—
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。	61
	噴射ポンプの不良ではありませんか。	販売店で修理または交換してください。	—
	軽油以外の燃料を使用していませんか。	軽油に入替えてください。	62
運転中エンジンが停止した	燃料切れしていませんか。	軽油を補給してください。	32
	燃料系統に空気が入っていませんか。	燃料タンクから噴射ポンプまでの燃料ホース点検してください。	61
	燃料フィルタが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。	61
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。	41
	燃料に水が混入していませんか。	水抜き、または新しい軽油と交換してください。	62
エンジンがオーバーヒートした	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。	56
	ファンベルトがゆるんでいませんか。	販売店で張り調整をしてください。	—
	ファンベルトが切れていませんか。	販売店で交換してください。	—
	防塵カバーが目詰まりしていませんか。	清掃してください。	—
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。	—
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。	41
マフラより白煙が出る	エンジンオイルの量が多すぎませんか。	オイルを適量になるまで抜き取ってください。	57
	エンジンオイルの粘度が低すぎませんか。	適度な粘度のオイルに交換してください。	57

故障状況	原因	処置	参照ページ
マフラより黒煙がでる	エアクリーナエレメントが目詰まりしていませんか。	洗浄または交換してください。	59
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。	41
	軽油以外の燃料を使用していませんか。	軽油と交換してください。	62
チャージランプが消灯しない	ファンベルトがゆるんでいませんか。	販売店で張りの調整をしてください。	—
	ファンベルトが切れていませんか。	販売店で交換してください。	—
オイルランプが消灯しない	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。	57
	エンジンオイルの粘度が低下していませんか。	新しいオイルと交換してください。	57
	オイルフィルタが目詰まりしていませんか。	交換してください。	58
ハンドルが左右どちらかへ取られる	タイヤの空気圧が不揃いではありませんか。	空気を入れて揃えてください。	65
ブレーキの効きが悪くなった	ペダルの遊びが大きすぎではありませんか。	販売店で遊びを調整してください。	66
	ライニングが摩耗していませんか。	販売店で交換してください。	—
作業機が上昇しない	油圧ポンプの不良ではありませんか。	販売店で交換してください。	—
	バルブがゴミ詰まりしていませんか。	販売店で修理を依頼してください。	—
各部に振動が多い	ハンドルが振れていませんか。	販売店に相談してください。	65
	各取付ボルト・ナットがゆるんでいませんか。	増締めしてください。	69

1. 主要諸元

型 式 名		SS1700B	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	3560	
	全 幅 (mm)	1800	
	全 高 (mm)	1745	
機 体 質 量 (kg)		1400	
エ ン ジ ン	型 式 名	シバウラ S773L	
	種 類	水冷3気筒ディーゼルエンジン	
	最 大 出 力 {kW(ps)}	16.9(23)	
	総 排 気 量 (cc)	1130	
	始 動 方 法	セルモータ式	
	燃 料 / タ ン ク 容 量 (L)	JIS2号軽油 / 30	
伝 動 部	走 行 速 度 (km/h)	前 進	0~16.8
		後 進	0~7.5
走 行 部	タ イ ヤ		20×10.00-8
	輪 距 (mm)	前 輪	1350
		後 輪	1420
	軸 距 (mm)		1650
	駆 動 方 式		HST油圧駆動無段、4WD
荷 容 量 (m ³)	1.7		
箱	最 大 作 業 能 力 (kg)	300	

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主要消耗部品

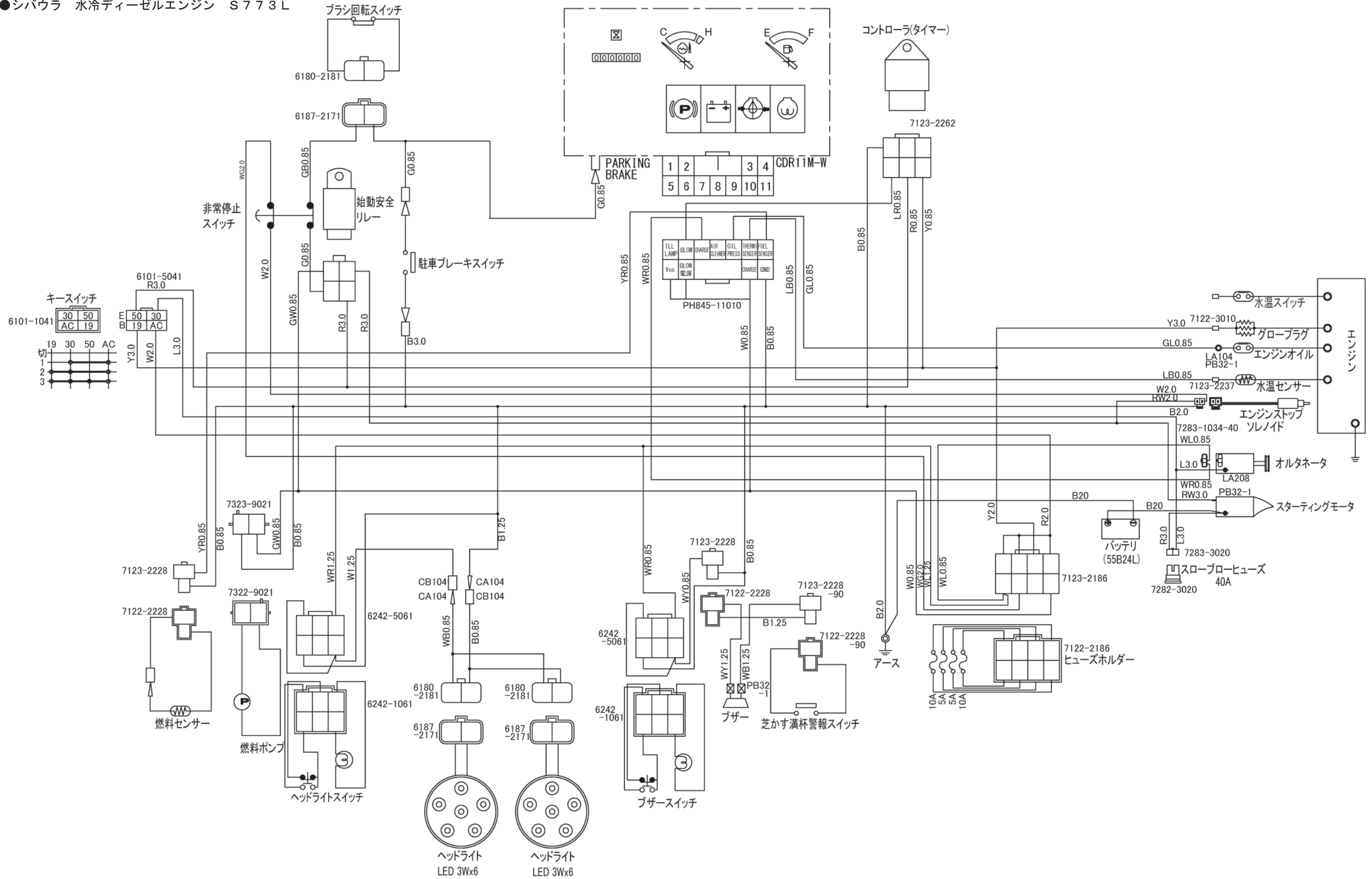
NO.	品名	部品番号	備考
1	ワイヤASSYアクセル	1E1161-51050	
2	コントロールワイヤA	1E1161-42091	ブレーキペダル
3	コントロールワイヤB	1E1161-42100	駐車ブレーキレバー
4	フロントホイールASSY	336035651	4本
5	バッテリー55B24L	7E1160-52020	
6	カートリッジフィルタ	7E1106-61030	
7	エアクリーナエレメント :Out	314531174	
8	エアクリーナエレメント :In	314531175	
9	オイルフィルタCOMPL	140517020	
10	燃料フィルタエレメント	360720020	
11	燃料フィルタリング	052100400	
12	燃料フィルタリング	052100100	
13	シールワッシャ	025100012	エンジンオイルドレン用
14	ブラシ	1E1161-68320	4本

付属品

No.	品名	個数	部品番号	備考
1	取扱説明書	1	1E1161-95070	
2	本体部パーツリスト	1		
3	エンジンパーツリスト	1		
4	保証書（納品説明確認カード）	1		

9章 電気回路図

●シバウラ 水冷ディーゼルエンジン S773L



株式会社IHIアグリテック

お問い合わせ先

〒390-8714 長野県松本市石芝1-1-1 TEL.0263(88)0200 FAX.0263(26)7517